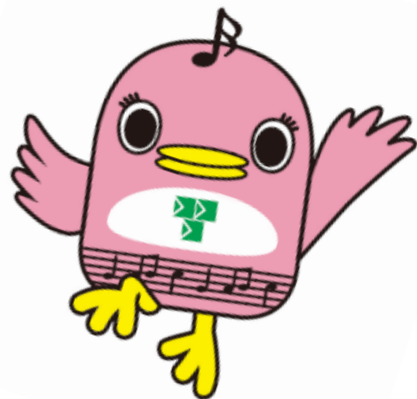


**習志野市就学前
教育・保育カリキュラム**



令和8年4月

習志野市教育・保育カリキュラム

目 次

第1章 総 論

1	カリキュラム策定・見直しの趣旨	1
2	就学前教育・保育の理念	1
3	本市が目指すこども像	2

第2章 内 容

1	基本的な考え方	2
	(1) 生きる力の基礎を育む教育・保育の充実	
	(2) 小学校につながる円滑な接続	
	(3) 保育者の資質向上	
	(4) 家庭や地域との連携	
2	「幼児期において育みたい資質・能力の整理」	4

第3章 指導計画

0歳児～1歳児	6
2歳児	16
3歳児	22
4歳児	28
5歳児	34

資料 発達のみちすじ表

0歳	～	1歳半	41
1歳半	～	3歳	43
3歳	～	4歳	45
4歳	～	6歳	47

第1章 総論

1 カリキュラム策定・見直しの趣旨

習志野市の未来を担う子どもたちが、健全に成長できることを最大の目的として「習志野市就学前教育・保育カリキュラム」を策定し、本カリキュラムを教育・保育の基本として決めました。

就学前の教育・保育に関わる各施設〔保育所（園）・幼稚園・幼保連携型認定こども園（以下こども園とする）・小規模保育事業所〕は、本カリキュラムを基本とした上で、こどもや保護者の状況、地域性などを踏まえた独自性のある計画を立案し、教育・保育を実施することとします。

本カリキュラムの見直しは、保育所保育指針、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の趣旨を踏まえ、就学前における教育・保育の一体的な提供を推進するとともに、市内のどの施設に通っていても、子どもたちが安心して育ち、学びをつないでいけるよう、教育・保育の考え方を改めて整理するものです。

令和5年に策定された「幼児期のこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」では、「こどもの誕生前から幼児期まで」は、人の生涯にわたるウェルビーイングの基盤となる最も重要な時期である、と示されました。

一人一人のこどもが、地域の中で皆から愛され、健やかに豊かな生活を楽しむことが保障されて、その子らしく心身ともに健全に発達し、意欲的に学ぶようになる環境を社会全体として整えていくことが大切であると考えます。

2 就学前教育・保育の理念

本市の就学前教育・保育では、全てのこどもを大切な存在として受け止め、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを通して、一人一人がその子らしく育っていくことを支えていきます。

- （1）全ての就学前の子どもたちの人権を尊重し、保育所（園）、幼稚園、こども園、小規模保育事業所が家庭、地域と協同して「子どもたちが、基本的安全感、健康で文化的な生活、豊かな遊びを保障されて、心身の調和のとれた発達をし、健全な人間形成の基礎を培う」ことを実現します。

(2) 保育所（園）、幼稚園、こども園、小規模保育事業所と家庭、地域とが「子育てパートナーとして互いに信頼し、子育ての場を共有し、子育ての情報を交換し、相談し、交流することによって、こどもを中心に様々な感動の体験をする」ことを実現します。

(3) 保育所（園）、幼稚園、こども園、小規模保育事業所が、家庭、地域の参画、参加を得ながら、「安全な環境、確かな教育・保育、開かれた運営を目指すことによって信頼され、子育てにおいて安心できる地域の「子育て支援としての役割」を実現します。

3 本市が目指すこども像

明るく元気なこども

友達と仲良く遊べるこども

よく見、よく考えて行動するこども

第2章 内 容

1 基本的な考え方

習志野市就学前教育・保育カリキュラムは、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、3つの資質・能力を育むために大切にしたい教育・保育内容について、次の視点を重視して作成しました。

(1) 生きる力の基礎を育む教育・保育の充実

① 基本的な生活習慣の形成

- ・生活リズムの形成
- ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度の育成
- ・決まりやルールの習得

② 発達や学びの連続性を重視した指導の積み重ね

- ・こどもからの働きかけを周囲の大人が受容し、応答的に関与する環境
- ・こどもが好奇心をもつような環境の構成
- ・こどもたちの身体的・精神的・社会的発達の基盤の形成

③遊びを通した総合的な指導

- ・物との関わり、人との関わりが豊かに保障される遊び
- ・一人一人の発達の特性を生かす集団づくり

④環境を通した保育

- ・こどもの興味や欲求に応じた環境
- ・ねらいや内容を達成するための環境
- ・こどもの発達に即した環境

(2) 小学校につながる円滑な接続

①学びの芽生えの育成

- ・知識や技能の基礎
- ・思考力・判断力・表現力等の基礎
- ・学びに向かう力、人間性等

②幼保こ小の連携や研修・交流による相互理解

- ・習志野市接続期カリキュラムの活用
- ・幼児と児童の交流の推進
- ・幼児教育と小学校教育及び発達の相互理解

(3) 保育者の資質向上

①研修の充実

- ・豊かな人間性・感性を培うための自己研鑽
- ・専門性を高めるための研修や研究の推進
- ・保育所（園）、幼稚園、こども園合同研修会、公開保育等の実施

②特別支援教育の推進

- ・一人一人の特性やニーズに応じたきめ細かい支援の充実
- ・保護者の思いに寄り添った丁寧な支援と連携
- ・専門機関との連携及び、発達支援研修の充実

(4) 家庭や地域との連携

①保護者支援と家庭教育の推進

- ・子育て相談の充実

②地域社会における子育て支援の充実

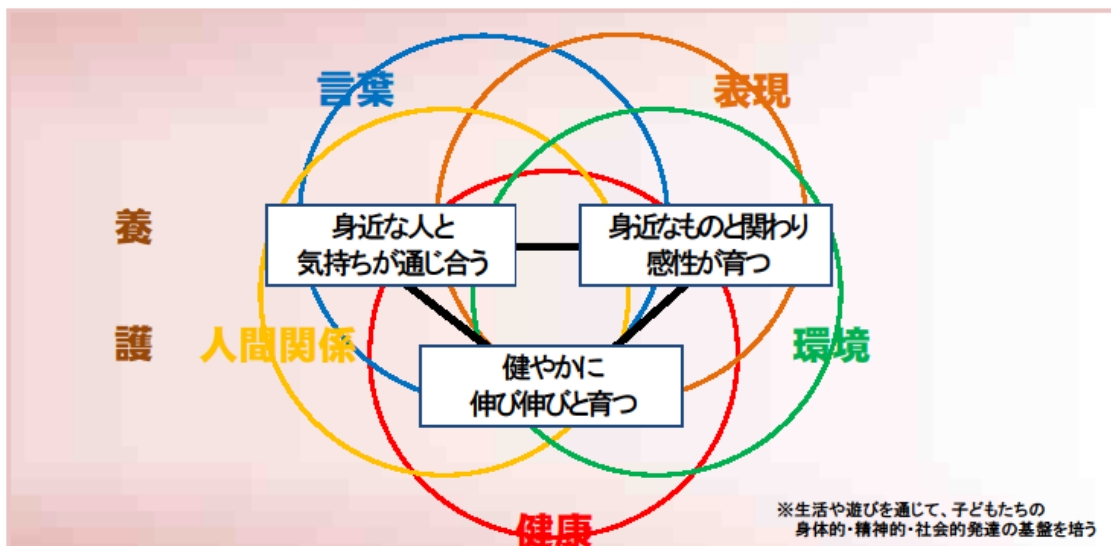
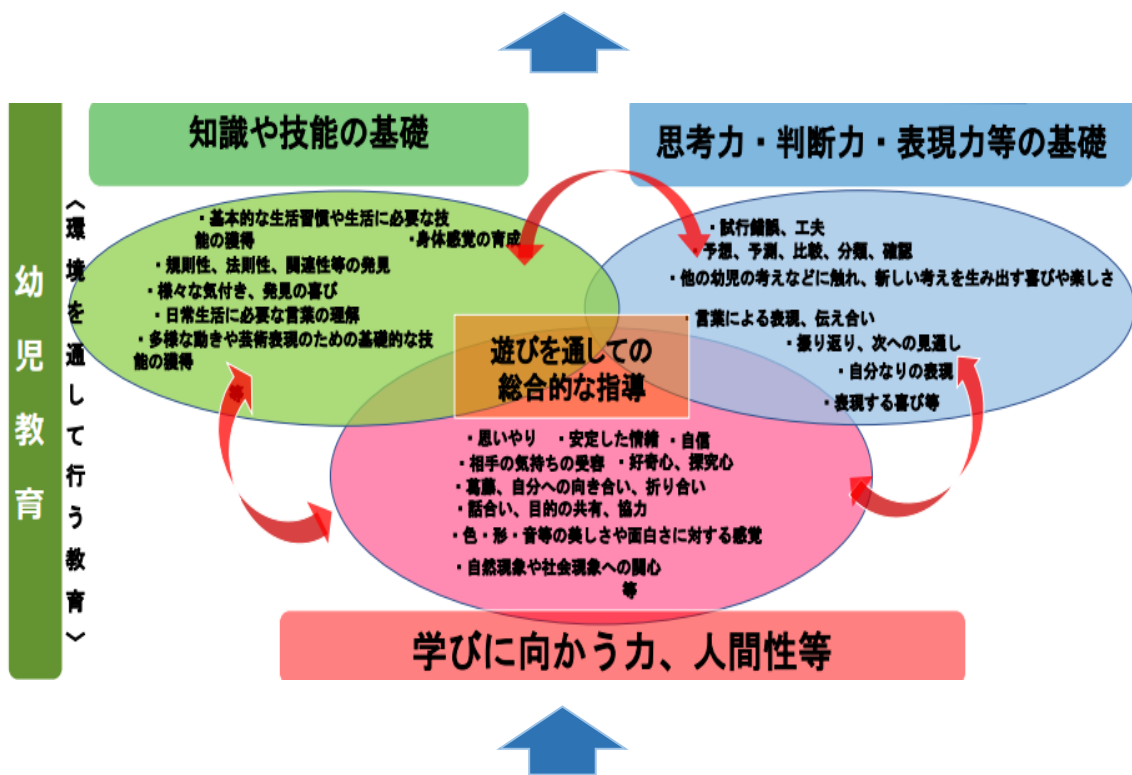
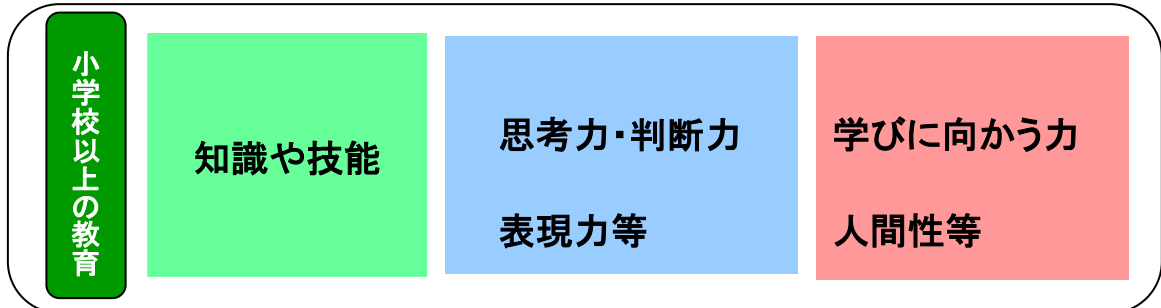
- ・子育て支援事業、子育て情報の発信

③身近な地域の人々との交流の充実

- ・近隣の施設や小学校との交流
- ・地域行事への参加





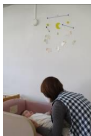
2 「幼児期において育みたい資質・能力の整理」



第3章 指導計画

指導計画の見方

0歳児から1歳児は個の発達に応じた保育が基本であるため、月齢別指導計画としている。2歳児については、期別指導計画としているが、個の発達に応じた保育が基本となる部分もある時期なので、月齢別指導計画に3歳頃までを記載している。3歳児以上については、個を基本としながら、クラス(学級)保育となっていくことから、期別指導計画としている。

	3か月 ~ 6か月
その期に遊びや活動を通して育みたい姿をねらいとして記載している。	ね ら い ☆保育者に欲求を受け止めてもらい、安心して過ごす。 ☆一人一人の心地よい生活リズムで、情緒が安定し気持ちよく ☆寝返りや腹ばいなど、伸び伸びと体を動かそうとする。
こどもに経験させたい主な内容を記載している。	○室内外の快適な温度、こどもの健康に合わせた衣服調節により、心地よく過ごす。  ★離乳食は、5か月頃、首がしっかりと座り支え
保育のポイントを記載している。	保育のポイント ★体調や天候を見ながら、外気に触れる機会を作ろう。 ★こどもが心地よく感じる姿勢で遊び、腹ばいや寝返りの機会を作ろう。 
月齢や期の保育のポイントを記載している。	○優しい語り掛けや歌い掛け、泣き声や喃語への応答により保育者との関わりを喜ぶ。 ○赤ちゃん体操やおむつ交換時のマッサージなどを取り入れ、保育者の優しいスキンシップによって心地よく体を動かす。
ねらいを達成するための物的・人的・空間的な環境構成や、保育者の直接的・間接的な関わり等援助や配慮を記載している。	目覚めている時は優しく抱き上げ、あやしたり、そっと揺らしたりゆったりと 

なお、指導計画には、家庭との連携について記載はないが、家庭との連携は不可欠であることから、こどもの成長・発達の姿等家庭へ知らせる内容や、連携を図りたい事項については、各施設の指導計画等に記し職員で共通理解を図り進めていく。

0歳児・1歳児

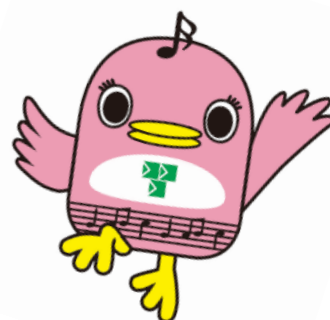


★0歳児★

生命の安全と健康の保持を最優先とし、安心して過ごせる環境を整えることが大切である。一人一人の生活リズムや発達段階に応じて、抱っこや語り掛け、スキンシップを通して愛着関係を築き、丁寧な関わりを通して言葉の芽生えや人との関わりなどの基盤を培うことにつながる。また、寝返りや四つ這いなど、主体的な動きや五感を通じた豊かな体験を保障しながら発達を支えていく。食事、排泄等日々の生活面において、こどもが示す様々な欲求に応え、身近にいる保育者が適切かつ応答的に働きかけることにより、こどもと保育者との間に情緒的な絆が形成されるよう努めることが重要である。また、保護者の気持ちに寄り添い、共にこどもの育ちを見守りながら、保護者が安心して子育てできるよう信頼関係を築くことが大切である。

★1歳児★

歩行や言葉の芽生えなど発達が著しく、行動範囲も広がり探索活動も活発になるので、歩く、登るなどの全身を使った遊びや言葉を交わす経験が繰り返し楽しめる環境を整えることが大切である。保育者や友達に関心をもつようになり、簡単なやりとりやつもり遊びも見られるが、言葉で伝えることはまだ不十分であるため、噛みつきや手がでることもある。少人数でゆったりとした雰囲気の中で過ごせるような保育環境の工夫や一人一人が満足する玩具の精選と量に配慮する。また、自我が芽生え始め「自分で」と主張したり、だだをこねたりする姿も見られる。気持ちを認めながらこどもに選択肢を掲示するなどして、自分で気持ちを切り替えられるような対応を心掛け、自我の育ちを支えていくことが重要である。また、こどもの発達や姿を保護者と共有し、さらに連携を深めていくことが大切である。



産休明け（8週） ～ 3か月

ね
ら
い

☆保育者の愛情豊かな受容の下で、心理的欲求が満たされ心地よく過ごす。
☆一人一人の生活リズムの中で、安心して過ごす。

○保健的で安全な環境の下、体調の変化に対するきめ細やかな対応により、快適に過ごす。
○おむつ交換や衣類の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。

こどもの空腹のタイミングに合わせて授乳をしましょう。授乳は抱いて語り掛けたり、目を合わせ、微笑みかけたりしながらゆったりとした気持ちで行いましょう。



哺乳びんの乳首のサイズは飲み具合に合わせて変更していきましょう。

ミルクを飲んだ後は、優しく背中をさすり排気をさせ、溢乳を防ぎましょう。



授乳クッションや授乳椅子を使用すると授乳が安定します。

★身体機能が未熟であり病気に罹患しやすいため、こどもの健康状態を十分に把握しましょう。この頃の生活の大半は睡眠です。睡眠中は、こどもの顔色や呼吸の状態を5分ごとに観察する必要があります。（SIDSチェック）

○保育者の愛情豊かな受容的関わりの中で、食欲・睡眠・排泄など生理的欲求が満たされ心地よく過ごす。



保育者の表情豊かな関わりの中で、十分なスキンシップを図り、心地よい気持ちのやりとりを楽しむことで、情緒が安定し人との信頼感が育ちます。

保育のポイント

- ★保育者の愛情豊かな関わりにより愛着関係を築いていこう
- ★保護者と密に連携を図り、こどもの生活リズムを把握しながら、授乳のリズムを作っていこう
- ★目と目を合わせて優しく語り掛けるコミュニケーションを重ね、こどもの出すサインを敏感にキャッチしていこう



○保育者との関わりの中で、見る・聞く・触るなどして遊ぶ。



こどもが見ている物に共に目を向け、同じ視線となって寄り添いながら言葉を掛けていきましょう。



発達に合った玩具（形・色・素材）で感覚を刺激しましょう。

3か月 ～ 6か月

- ね
ら
い
- ☆保育者に欲求を受け止めてもらい、安心して過ごす。
 - ☆一人一人の心地よい生活リズムで、情緒が安定し気持ちよく過ごす。
 - ☆寝返りや腹ばいなど、伸び伸びと体を動かそうとする。

- 室内外の快適な温度、こどもの健康に合わせた衣服調節により、心地よく過ごす。
- 家庭状況や発育状況、健康状態に合わせて離乳食を開始し、ミルク以外の味や食物の形状に慣れる。
- 安全で伸び伸びと体を動かせる環境の下で、寝返りや腹ばいなどで体を動かそうとする。

離乳食開始の1か月程前から白湯などをスプーンで与え、スプーンに馴染めるようにしていきましょう。



離乳食初期は、ドロドロのおかゆを1日1回1さじから始め、こどもの様子をよく見ながら徐々に量を増やしていきましょう。



★離乳食は、5か月頃、首がしっかりと座り支え座わりができ、食べ物を見せると口を開けるなどの姿が見られるようになってから始めましょう。

- 優しい語り掛けや歌い掛け、泣き声や喃語への応答により保育者との関わりを喜ぶ。
- 赤ちゃん体操やおむつ交換時のマッサージなどを取り入れ、保育者の優しいスキンシップによって心地よく体を動かす。

目覚めている時は優しく抱き上げ、あやしたり、そっと揺らしたり、ゆったりと語り掛けたり十分に心地よさを味わえるようにします。人に対する関心を育てていきましょう。



「アーア」「ウーウー」など喃語が盛んに出るようになります。こどもは、声を出した後、保育者が応えてくれることをよく聞いています。こどもの声と保育者の言葉を掛け合う応答関係は、愛着関係の育みにつながります。

保育のポイント

- ★体調や天候を見ながら、外気に触れる機会を作ろう。
- ★こどもが心地よく感じる姿勢で遊び、腹ばいや寝返りの機会を作ろう。
- ★何でも口に入れて確かめるので、保育室の環境や玩具は常に清潔を保とう。
- ★離乳食開始のタイミングは保護者や栄養士と相談しながら進めよう。



- 優しく抱かれながら、きれいな色彩や音の出る玩具を見たり、聞いたりすることを喜ぶ。
- 立位で抱かれた状態で屈伸をしたり、腹ばいや寝返りをしたりして、体を動かすことを喜ぶ。



仰向けで手を伸ばすと触れることのできる、ベビージム。

玩具は素材、大きさ、形、色・音質など発達に合わせて選びましょう。カラフルな色や自然界にある色の玩具もあります。手で触れたり口に入れて試したりして、様々な動きを経験し、感覚機能の発達を促しましょう。

6か月 ～ 9か月

ね
ら
い

☆保育者の愛情豊かな受け入れの下、スキンシップや優しい関わりを喜び、心地よく過ごす。
☆寝返りやはいはい、つかまり立ちなど発達にあった動きで体を動かすことを喜ぶ。

- 心身の発育や発達の状態を踏まえた援助により、気持ちよく過ごす。
- おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じる。
- 安心できる保育者との関わりの中で、離乳食を食べたりミルクを飲んだりして、機嫌よく過ごす。



スプーンは子どもの正面から口に並行に入れて、自分で取り込むのを待ちましょう。



口の中へ取り込んだ後、舌で押しつぶし咀嚼しているか、上下唇や左右の口角の動き、嚥下など、食事援助の際には、子どもの口の動きや咀嚼の様子をよく見ていきましょう。

- 保育者の応答的な関わりや言葉掛けにより、欲求が満たされ安心感をもって過ごす。
- 保育者との関わりの中で、優しい語り掛けや喃語の応答により、喜びや心地よさを感じる。



★特定の保育者との温かい関わりや優しい語り掛けで、子どもの情緒が安定します。一人一人の育ちを支えることを認識して、こどもにゆったりとした気持ちで接するよう心掛け、基本的愛着関係を確かなものにしましょう。

保育のポイント

- ★母体免疫が弱まり感染症に罹患しやすくなるので、日々の様子を観察し、変化がみられた場合は適切に対応しよう。
- ★授乳や離乳食はこどもの健康状態や食欲に応じて行い、栄養士や保護者と相談しながら、食品や調理形態などに十分配慮し進めていこう。
- ★こどもの思いや欲求を、発声や喃語から汲み取り、言葉に置き換え応答することで、安心感や心地よさを感じられるようにしましょう。



- 寝返り・はいはい・お座りなどそれぞれの発達に応じた体の動きを喜ぶ。
- 玩具を手にもつ・触る・打ちつけて音を出すなどして楽しむ。



★一人一人の運動発達の表れ方の違いを理解し、楽しんでいる姿勢や移動を十分に経験することができるような環境を工夫しましょう。

9か月 ～ 12か月

ね
ら
い

- ☆自分の欲求を受け止めてくれる人に愛着をもち安定して過ごす。
- ☆身近な人や物に対して、興味、関心をもち、探索活動を楽しむ。

- お座り・はいはい・つかまり立ち・伝い歩き・立つ・歩くなど自由に移動しながら十分に体を動かす。
- こどもの様子に応じた調理形態で、いろいろな食べ物を見たり自分で口に運んだりして喜んで食べる。
- 排尿間隔に合わせておむつを交換してもらい、きれいになった心地よさを感じる。



自分で食べる喜びが感じられる経験を
を少しずつ増やしていきましょう。



十分に移動できるような空間、こどもが「あそこに行き
たい」と自ら移動したくなる環境を作っていきましょう。



歩行完成後も、はいはいを大事に取り入れていま
す。様々な動きが経験できるようにしましょう。

- 生活や遊びの中で保育者のすることに興味をもち、身振りを真似たり、保育者が発語を受け止め
応答したりすることでやりとりを楽しむ。



保育者の真似をして落ち
葉集め。「集まれ、集まれ
しようね」など動作に合わ
せて言葉を添え、関わって
いくようにしましょう。



保育のポイント

- ★伝い歩きだけでなく、ほうことも十分に
経験することができるようにしよう。
- ★こどもの様子に合わせて食品の種類や量
を増やしたり、大きさや固さなどの調理
形態を変化させたりして、離乳食がスム
ーズに移行できるようにしよう。
- ★こどもと関わる中で、声や表情、視線を
合わせて気持ちに共感し、期待や楽しさ
など様々な思いから発する声や喃語、片
言に答え、発語意欲を育てよう。
- ★周囲の環境に興味を示し自ら関わろうと
している時は見守り、不思議さや楽しさ
を感じて表現する姿に共感しよう。



- つまむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。



ビーズを見つめる
まなざしから、「こ
れなんだろう？」と
いう気持ちが読み
取れます。自分の
指でつまんで引っ
張る感覚を楽しめ
る遊びを取り入れ
ましょう。



牛乳パックで作った遊具、座位やつかまり立ち姿勢のまま触れたりつまったり
して遊びながら運動発達を促しましょう。

12か月 ～ 1歳3か月頃

ねらい

☆身近な人に甘えや欲求を受け止めてもらい、情緒が安定して過ごす。
☆はう・立つ・歩くなど一人一人の発達に応じた動きを楽しむ。

- 保育者や身近な人の行動に関心を持ち、簡単な模倣を楽しむ。
- 保育者の見守りの下、玩具や身の回りのもので遊ぶ。



わらべうたや触れ合い遊びなどを通して、保育者と関わる心地よさを感じられるようにしましょう。



★こどもが興味をもち自分からしようとする意欲を大切に見守ります。こどもの思いや欲求には、優しい表情や言葉で返したり、共感したりしましょう。

保育のポイント

- ★安全で活動しやすい環境を整え、探索活動が十分に経験できるようにしましょう。
- ★感情が複雑に豊かになってくる時期です。引き続きこどもの内面に思いを寄せ、気持ちを読み取りながら、応答的な関わりをしていきましょう。



- 指差しや身振り、喃語や片言を優しく受け止めてもらい、保育者とのやりとりを楽しむ。



自分を温かく受け入れてくれる保育者との信頼関係を築いていきましょう。



指さしや身振りなどで親しい大人に自分の要求や気持ちを伝えようとしています。こどもの表情や行動をよく見て、気持ちに寄り添った言葉掛けをしていきましょう。

- 食べたい、眠たいなどの生理的欲求が満たされ、心地よく過ごす。
- はう・立つ・歩く・よじ登る・くぐるなど全身を使って遊ぶ。
- スプーンを使って食べたり、コップで飲んだりすることに少しずつ慣れる。
- つまむ、叩く、引っ張るなど、手や指を使って遊ぶ。



行動が活発になってくるので、一人一人に合わせて休息がとれるようにしましょう。また、午前寝が必要な時は、静かで落ち着いた環境を整えましょう。



- 保育者と一緒に、草花やきれいな色彩のものをしたり、動物や身近なものが表現されている絵本などを見たりして喜ぶ。



保育室の空間を生かした装飾を工夫しましょう。（目線を上に向けたり、動きを目で追ったりする。色や音に興味をもつ等）



ウォールポケット（絵本やぬいぐるみ）や床に置いた感触マット、絵本コーナー



1歳3か月 ～ 1歳6か月頃

- ね ☆安心できる保育者との関係が深まる中で、自分の気持ちを安心して表す。
 ら ☆身の回りの様々なものに自由に触れて遊び、外界に対する興味や好奇心をもつ。
 い ☆安全で活動しやすい環境の下、いろいろな動きを楽しむ。

○身近な人との信頼関係の中で自分の気持ちを表そうとする。

他の子どもが、保育者の膝に乗っていると、自分もやってみたくて膝に座ります。「やってほしい」気持ちに寄り添いましょう。



保育者に甘えたい気持ちをいつでも温かく受け止め、安心して自己主張をしたり、要求を伝えたりできるようにしましょう。



★子どもが遊びに集中している時は、見守ります。遊びへの集中が途切れたり、子どもの世界が壊れたりすることのないよう、必要に応じて言葉を掛けていきましょう。

保育のポイント

- ★周囲への関心が増し、大人や他の子どもの動作を真似するようになります。子どもの思いに寄り添い、見守ったり関わったりしていこう。
- ★言葉に親しみをもち、人との関わりが豊かになる経験ができるようにしましょう。
- ★様々な素材に触れ、体と心で感じ取る経験や探索活動が十分できる環境を整えよう。(好奇心・感性を育む)
- ★自分を温かく受け入れてくれる保育者との信頼関係が大きな支えとなります。自我の芽生えと自己主張を丁寧を受け止める関わりを心掛けていこう。(受容的・応答的な関わりがポイント)
- ★食事は乳児食への移行期に入る時期です。様々な食材に慣れ自分で食べたい意欲がでてきます。子どもの気持ちが食事に向かうようゆったりとした雰囲気づくりや関わりを心掛けよう。



○食事や午睡、遊びや休息などの生活リズムが安定する。

- 様々な食事や調理形態に慣れ、咀嚼してから飲み込んだり、自分で食べようとしたりする。
- 登る、降りる、跳ぶ、くぐる、押す、引っ張るなど体を動かす遊びや、いじる、叩く、つまむ、転がすなど手や指を使う遊びをする。
- 表情や身振りでおもつが汚れたことを伝えようとし、交換してもらうことで心地よさを感じる。



おもつが濡れた時の子どものサインを見逃さず、タイミングよく交換することで、気持ちよさを感じられるようにしています。プライバシーを守るように、衝立などを活用していきましょう。

段差の登り降りや箱型押し車を押しながら前に進んでいます。安全面に配慮し、片面は壁を利用したり、軽量で安定感のある手作り押し車を用意したりしましょう。



乳児食への移行期であり、好き嫌いが出てきます。自分で食べようとする意欲につながるよう、言葉掛けをしながら一人一人に合わせて食事の援助をしていきましょう。

○驚きや満足感などを表しながら、探索を楽しもうとする。

繰り返しの遊びや探索が十分楽しめるよう安全な環境を整えましょう。



探索を通して物の扱いや身のこなしを経験できるようにしましょう。



戸外に出ることを積極的に取り入れていきましょう。一人一人の体調や気温に合わせて、無理のないよう場所や遊びの時間にも配慮します。水分補給も忘れずにしましょう。

ね
ら
い

☆安心できる保育者との関係の中で、食事や排泄、着脱など自分でやろうとする気持ちが芽生える。

☆身の回りの様々な人や物に興味関心をもち、探索活動を楽しむ。

○身の回りの様々な人と関わる心地よさを感じる。

先生、大好き



★特定の保育者と生活したり遊んだりして、「安全基地」がいつもあることがわかってくると、やがて「守ってくれる人はすぐそばにいる」と心の中に安全基地を作り自ら活動を広げていくことができます。

○斜面や段差のあるところを好んで歩いたり、走ったりするなど活発に体を動かすことを楽しむ。

○身の回りのことを自分でしようと、保育者と一緒にやってみようとする。

○こぼしながらも、スプーンを使って自分で食べようとする。



美味しいね

食べ物の好き嫌いを、仕草や表情で伝えてきます。こどもの思いを受け止め、まずは食べる楽しさを大切にしながら少しずつ食べられるようにしていきます。



自分で!

やって!



自分でしようとする気持ちを見守り「できた!」という経験を積み重ねられるような援助をしましょう。

できることでもやってもいい時がまだまだある時期です。言葉だけでなく表情や仕草などからも、こどもの甘えや気持ちを受け止め、柔軟な関わりを心掛けましょう。

保育のポイント

- ★“見て見て”“自分で!”を優しく受け止めていこう。
- ★探索活動が盛んになり行動範囲が広がる時期。安全に遊べるようこども目線の環境を整えていこう。
- ★言葉が著しく増える時期。言葉のやりとりをたくさんし、話すことを楽しみながら、語彙を増やしていこう。
- ★食事では、こどもが見通しをもち自分で行おうとする姿が増えてきます。食事に向かう気持ちや自分で食べる喜びを大切にしていこう。



○保育者の言葉掛けに喜んだり、自分から片言で話したりすることを楽しむ。

○「これは?」「何?」などの質問を繰り返すようになる。

この時期は、リズムカルな言葉の繰り返しやオノマトペ(擬音語・擬態語)が出てくる絵本を喜びます。保育者と1対1で楽しむ時間を大切に伝えましょう。



先生読んで

○保育者と一緒に歌ったり、簡単な手遊びをしたり、体を動かしたりして遊ぶ。

○保育者の真似をし、生活や遊びの出来事を再現する。

模倣を楽しむ姿を大切に、こどものイメージを言葉に置き換えて一緒に楽しみましょう。



保育者自身が感性を磨き、こどもの気付いたことに驚いたり、感動したり、共感したりしましょう。

○好きな玩具や遊具、自然物に自分から関わり十分に遊ぶ。

○手や指を使う玩具で遊ぶ経験や、道具を使う経験をする。



入れたり、戻したり、繰り返しの遊びが楽しめる場を作りましょう。

目の前のことにじっくりと集中して遊べる場や時間を保障していきましょう。

2歳～2歳6か月

ね
ら
い

- ☆安心できる保育者の見守りのもと、食事・排泄・着脱などの簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
- ☆保育者や友達との関わりを深めながら、自分の気持ちを安心して表す。

- 保育者との受容的、応答的な関わりの中で、欲求を受け止められ安心して過ごす。
- 生活や遊びの中でいろいろなことを自分でやってみようとする気持ちをもつ。



欲求や話に応答し、やりたい気持ちを汲み取ります。一人一人の思いを丁寧に受け止めていき安心して過ごせるようにしましょう。

- 保育者の助けを借りながら手洗いや口のまわりを拭く、靴や簡単な衣服を着脱しようとするなど、少しずつ身の回りのことをしようとする。
- 排尿間隔が長くなり、保育者に誘われて便器に座ろうとする姿が見られる。また、パンツを履いてみようとする意欲が見られる。



自分で行おうとする姿を大切に、基本的な生活習慣の習得につなげていくようにしましょう。

保育のポイント

★自我が芽生え、自分の領域を意識するようになるため、「自分で」「やって」「まだ遊びたい」などその時に表現する様々な気持ちを丁寧に受け止めて、こどもの意欲を引き出そう。



- 身の回りの植物や事物に触れ、興味をもって探索したり模倣したりするなどして遊ぶ。

こどもが物や事に触れて何を感じ、何を考えているのか、何に興味を抱いているのかをこどもの目線や表情、仕草などから読み取り、寄り添いながら、関わり方を考えていきましょう。



これはね
おうちだよ



言葉にはならないが、こどもが頭の中でイメージしたことを玩具や素材を使って表現する姿を大切にいきましょう。

身近な自然を見たり、触れたりして色に気づいたり、きれいだなと感じたりする経験を保育者が傍で見守り、「きれいね」と言葉にして共感することで、豊かな表現につなげましょう。

- 生活に必要な簡単な言葉を聞き分けたり、身近な出来事で興味を示したことを言葉や仕草で表したりする。
- 絵本や紙芝居を見たり、聞いたりし、繰り返しのある言葉の模倣をする。



遊びを通して「どんな話をしているかな」と、こどもの言葉や仕草、動作からこどものイメージを読み取って、さらに言葉やイメージが豊かになるよう関わっていきましょう。

言葉や姿から経験したことを再現できるような物や身に着けてなりきれ物を用意したり、玩具そのものを組み立ててみたりして楽しめるよう環境を整えましょう。

- 走る・跳ぶ・跳び降りる・ぶら下がる・押す・引っ張るなど全身を使って遊ぶ。
- つまむ・丸める、めくるなど（戸のノブを回す、シールを貼る、はがす、小指側の指にも力を入れて外向きの動作など）手や指を使って遊ぶ。
- 水、砂・土など自然の様々な素材に触れて遊ぶ。



戸外遊びや遊具で遊ぶ機会を通して、こどもが主体的に遊べるように環境を工夫していきましょう。



2歳6か月 ～ 3歳頃

- ね
ら
い
- ☆安心できる保育者に見守られて、食事・排泄・着脱などの簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
 - ☆保育者の受容的、応答的な関わりの中で、欲求を十分に受け止めてもらい、安心して自分の気持ちを表現する。
 - ☆保育者と一緒にみたく・つもり遊びをする中で、簡単な言葉のやりとりを楽しむ。

○保育者の仲立ちにより、他のこどもと同じ場で遊ぶことを喜ぶ。

同年齢や異年齢のこどもの触れ合いの機会を多くし、他のこどもへの関心を広げ、人と関わる楽しさや嬉しさを感じられるようにしましょう。



- 楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使って自分で食べる。
- 簡単な衣服を手伝ってもらいながら脱いだり、着たりする。
- 顔を拭く、手を洗う、鼻を拭くなど保育者の手を借りながら自分できれいにしようとする。
- 自分からトイレに行き、保育者が見守る中で排泄しようとする。
- つまむ・丸める・めくるなど手や指を使う遊びをする。



自分でできるよ♪

- ・自分で身の回りのことをしようとする姿を認め、できないところはそっと手を添えてさりげなく援助しましょう。援助しましょう。
- ・運動面の発達に伴い動きが活発になります。危険な箇所や遊具、道具の事前点検を十分に行いましょう。

保育のポイント

- ★生活面の自立が著しい時期なので、こどもの「自分で」の気持ちに寄り添い、様子に合わせた援助をしよう。
- ★体験したこと、イメージしたことを再現して遊べる環境を作ろう。
- ★全身を使って遊び、様々な感覚を育てよう。
- ★他のこどもと関わるような環境を整え、保育者が仲立ちをしながら、身近にいるこどもと関わる楽しさを重ねていこう。



○保育者と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。

歌うことや音楽に合わせて体を動かすことが楽しめるよう、繰り返しのある歌詞やリズムカルな曲を用意し表現を楽しめるようにしましょう。



○保育者と一緒にみたく・つもり遊びをする中で、言葉のやりとりをする。



★「みたく・つもり遊び」には、こどもの世界があり、具体的なイメージが広がっています。こどもは体験した楽しい思いから、再現してみたいと思いを抱きます。こどもが主人公になり夢中になって遊べる環境を工夫し、こどもの世界に共感をし、一緒に楽しみましょう。



- みたく・つもり遊びがより楽しくなるような遊具を工夫する。
- 自分の物の置き場や玩具の置き場がわかり、片付けようとする。

物の置き場が視覚的に理解できるよう、元の場所に写真を掲示するなど工夫しよう。また、こどもがしたいことを十分に行うことができるように、時間と空間の確保をすることを大切にしましょう。

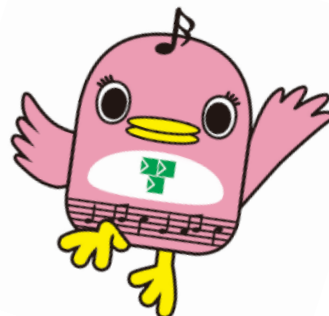


2 歳児



★ 2 歳児 ★

手指や体の運動機能が向上し語彙数も増え、基本的な生活習慣においても自分からやってみようとする時期である。一方で、思い通りにならない様々な状況に葛藤し、気持ちが不安定になるなど感情が揺れ動く時期でもある。自分でやろうとする意欲を受け止め、安心して自分を表現できるよう援助し、満足感をもてるようにしていくことが大切である。また、友達への関心が高まり、模倣や簡単なごっこ遊びなどなりきる遊びを楽しむ姿が見られるようになる。自我の芽生えや言葉の発達に伴い、自己主張が強くなることから友達との気持ちのすれ違いも多く見られるが、一人一人の気持ちを受け止め、時には励まし、時には甘えを認めていく関わりが重要である。保護者には、こどもが自分でやろうとする姿を成長として捉えられるよう日々の様子を丁寧に伝え、家庭と一貫した支援につなげていくことが大切である。



2歳児（第1期） 4月～5月

- ね ☆保育者に不安や欲求を受け止められながら、安心して過ごす。
 ら ☆保育者と一緒に生活する中で、新しい環境に慣れる。
 い ☆保育者に見守られながら、自分のしたい遊びを楽しむ。

- 一人一人の発達や家庭状況に配慮し、無理なく新しい環境に慣れる。
 ○食事、排泄、午睡など安心して行えるように、ゆったりとした生活リズムと雰囲気心掛ける。

サンダルは揃えやすいように置く場所にマークを付けましょう。



トイレトペーパーは一回分を用意しておく使いやすいです。

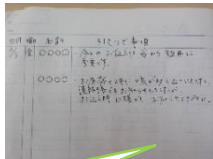


家庭と同じようにいつも同じ場所で食事をしたり、午睡をしたりと自分の決まった場所があるとこどもは安心します。



- ★「ゆったり」とは…
- ・少人数（6対1の少人数グループでいつも同じ保育者と保育を進めていくと信頼関係も深まります）
 - ・その子のペース
 - ・時間のゆとり
 - ・落ち着いたスペース
 - ・安心できる保育者との関わりなど状況に応じて考えていきましょう。

- 一人一人の甘え、不安、欲求を細やかに受け止め、安心して過ごせるようにし、こどもとの信頼関係を築いていく。
 ○一人一人に合わせた対応が行えるように保育者間で共通理解を図り、連携していく。



引継ぎノート記入例

怪我はもちろん、日々のこどもの様子を職員間で引き継ぎ、保護者に伝えることで、保護者との信頼関係を築いていきましょう。

保育のポイント

- ★新入児、進級児共に環境の変化に戸惑いや不安があるので、できるだけ同じ保育者が関わり、気持ちを受け止め信頼関係を築いていこう。
 ★好きな遊び、興味のあるもの、一人一人の発達段階を把握し、こどもの姿に合わせて環境を整えていこう。



- 季節の歌や好きな歌を歌ったり、リズムにのって体を動かしたりする。
 ○砂や水など様々な素材に触れて遊ぶ。
 ○絵本やパネルシアターを見ることで、イメージを豊かにする。



- 自分の気持ちを言葉や仕草で伝えようとする。



お花きれいね



こどもが伝えようとする姿丁寧を受け止めてあげましょう。保育者は受容的・応答的に関わりましょう。

- 身近な自然の中で、虫や草花を見たり、触れたりする。
 ○絵本、ブロック、積み木、粘土などに興味をもち、好きな遊具や好きな場で遊ぶ。

こどもの視線を考えて場の設定をしましょう。



自分の物として持ちたがる時期、玩具は十分な数を用意しましょう。



2歳児（第2期） 6月～8月

- ね ☆保育者に気持ちを受け止めてもらいながら、安心して生活する。
 ら ☆保育者と一緒に、簡単な身の回りのことをやってみようとする。
 い ☆保育者や友達がしていることに関心をもち、同じ場で遊んだり真似したりする。

- 保育者や友達のしていることに関心をもち、同じ場で遊んだり真似したりする。
 ○遊びやぶつかりあいを通して、自分とは違う友達の思いに触れる。



- ★保育者との愛着関係により人への信頼感が生まれます。
 ★友達への興味が高まり、こども同士のぶつかりも多くなるので、温かく受け止めていきましょう。
 ★友達とのぶつかりあいでは、まず、保育者が双方の気持ちを温かく受け入れ仲立ちしましょう。

- 楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使って自分で食べる。
 ○トイレに興味をもち、促されてトイレに行ったり、便座に座ってみようとしたりする。
 ○簡単な衣服は一人で脱ぐようになり、手伝ってもらいながら一人で着ようとする。
 ○走る・登る・跳ぶ・押す・引っ張るなど体を動かして遊ぶ。



- ★身の周りのことを自分でしようとする気持ちを大切にしながら一人一人に合わせて見守りや励まし、手を添えるなどの援助をしていきましょう。
 ★トイレは自分から”行ってみようかな”という気持ちになるまでが大事なので、根気よく付き合ってください。
 ★トイレに興味をもつ、保育者や友達と行ってみようとする、便座に座ってみるなど一人一人の気持ちに合わせて誘っていきましょう。



保育のポイント

- ★食事は一人一人に応じた量を加減し、楽しく食べられたという満足感が得られるようにしよう。
 ★食事や着替えなど日々の繰り返しの中で、こどもの思いやペースを尊重した丁寧な関わりを通して、少しずつできた経験を増やしていこう。
 ★排泄面は個人差が大きいので、一人一人に合わせて無理なく布パンツに移行できるよう、家庭と話し合いながら進めていこう。
 ★水分補給や休息を十分にとりながら、 parasolや遮光ネットなどで日陰を作り、涼しい時間帯に戸外でも過ごせるようにしよう。



- 好きな絵本・紙芝居を繰り返し読んでもらうことを喜ぶ。
 ○音楽を聞き、喜んで体を動かしたり、歌ったりする。
 ○人形やままごと道具などを使って、みたて・つもり遊びをする。



他の遊びの妨げにならないように音楽コーナーの音量に配慮しましょう。

みたて・つもり遊びにつながりやすいように、日常生活用品を手に取りやすいところに置いておくとういのですね。



- 保育者や友達の名前を呼んだり、挨拶をしたりする。
 ○遊びの中で「貸して」「替わって」「いいよ」など自分の思いを伝えようとする。



ごめんね

- ★自分から話そうとする気持ちを大切に、言葉にできない思いを優しい気持ちで丁寧に受けとめましょう。
 ★保育者が温かく受けとめようとする表情、声色、身振りなどはこどもに敏感に伝わります。温かい関わりが心地よさにつながるのでこどもの目の高さで向き合いたいしょう。

いいよ

- ★日常使う言葉はこどもが理解できるように、場面ごとにわかりやすく具体的な言葉で丁寧に伝えましょう。

- 泥・砂・水に触れながら遊ぶ心地よさを感じる。
 ○保育者や友達と一緒に、身近な動植物を見たり、触れたりする。



砂場遊具やジョウロ、空き容器などは十分に用意しましょう。



植物は実際に触れ、温度、柔らかさ、匂い、音などを感じられる体験をたくさんできるようにしましょう。



2歳児（第3期） 9月～10月

- ね
ら
い
- ☆保育者に手伝ってもらいながら簡単な身の回りのことをやってみようとする。
 - ☆保育者の仲立ちの下、保育者や友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。
 - ☆秋の自然を見たり触れたりすることを喜ぶ。

○保育者や同じ場にいる友達と一緒に遊ぶ。



- ・一人一人の欲求を満たすことが情緒の安定につながります。
- ・生活や遊びの中で同じ興味のあるものを介して友達との関わりが広がるように、こどもの気持ちの代弁や、やりとりにつながるような仲立ちをしましょう。

- ゆったりとした雰囲気の中で、食べる喜びや楽しさを感じる。
- 保育者の促しや見守りの中、トイレで排泄しようとする。
- 保育者と一緒に、走る・跳ぶ・登る・くぐる・跳び下りるなど体を動かして遊ぶ。



食事を楽しむ中で、スプーンの正しい持ち方を知らせていきましょう。



遊びながらこどもの様子に合わせて設定を変えて、様々な動きを引き出しましょう。

手伝ってもらいながら、自分でできた喜びと一緒に共感しましょう。

保育のポイント

★自我の芽生えや自己主張など自分でやりたいことと現実の姿の違いに葛藤する姿が見られるので、保護者とも心の発達を共通理解していこう。こどもが折り合いをつけていく過程を丁寧に受けとめよう。



- 保育者や同じクラスの友達と一緒に簡単な歌を歌ったり、体を動かしたり、動物などの表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
- 積み木、ブロックなど作った物や表現したものに命名しながら遊ぶ。



何度もつけたりとったりしていくうちに思いがけない形となり、自分から命名するようになります。保育者からは命名せず、こどもからのイメージを大切にしていきたいでしょう。



○保育者の仲立ちで、生活や遊びの中で友達との簡単な言葉のやりとりを楽しむ。

いただきます

ごはんどうぞ



こどもの言葉に耳を傾け、応答的なやり取りを重ねていき、こどもが言葉で自分の気持ちを伝えようとする意欲を育てていきましょう。

せんせい
ごはんどうぞ

- 自然の変化を感じたり、木の実や木の葉に触れたりして遊ぶ。
- 身近な素材や玩具で、つまむ・丸める・破るなど手指を使って遊ぶ。



戸外や散歩に出かけ、自然物の手触り、大きさ、形、匂いなど様々な感覚を直接体験したり、風、雲の動きなど肌で感じたり目で追ったりすることから心が動く楽しさに十分触れられるようにし、こどもの驚き、発見、喜びに共感しましょう。

2歳児（第4期） 11月～12月

- ね ☆保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことをやってみようとする。
 ら ☆自分なりにみためたり、なつたつもりで遊んだりすることを楽しむ。
 い ☆保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。

- 保育者や同じ場所にいる友達と、生活の再現やみため・つもり遊びを楽しむ。
 ○気の合った友達と、ままごとやブロックなどで一緒に遊ぶ。



ごはんできたよ

- 寒さに向かう時期なので、衣服の調節を行い、健康に過ごせるようにする。
 ○保育者に言葉を掛けられ徐々に、食器の扱い方に気付き、こぼすことが少なくなる。
 ○自分で尿意を感じてトイレに行こうとしたり、不快感を知らせて取り替えたりする。
 ○簡単な衣服は、一人で着脱しようとする。
 ○いろいろな遊具を使って、ぶら下がる・登る・押す・引くなどの全身を使った遊びや追いかけっこ遊びを楽しむ。

歩く、押す、引くなど遊びの中で様々な動きが楽しめるようにしましょう。



保育のポイント

- ★自分でやろうとする姿を見守り、「自分でできた！」という喜びにつなげていこう。
- ★自分で出来るようになったことも、その日の気分や体調によって出来ないこともあるので、こどもの甘えたい気持ちを丁寧に受け止め、状況に応じた援助（言葉掛け、手助け）を行っていこう。
- ★一人一人のこどもが、自分なりにイメージをもって遊ぶ姿を認め、保育者も一緒に楽しもう。
- ★みため・つもり遊びをする中で、やり取りの楽しさを味わえるよう保育者も一緒に遊び、それぞれのイメージが相手に伝わるような橋渡しをしていこう。



- 友達と一緒に歌ったり踊ったりなど体を動かすことを楽しむ。
 ○追いかけっこ遊びやリズムカルな歌などを通して、自分なりの言葉でやりとりを楽しむ。
 ○ままごとなど生活を再現し、みため・つもり遊びや好きなものになりきって遊ぶ。

保育者も遊びの仲間として関わり、それぞれのイメージを言葉や仕草で表現する楽しさを感じられるようにしましょう。



- 追いかけっこやリズムカルな歌や遊び、好きな絵本や紙芝居を繰り返し見る中で、模倣したり言葉のやりとりを楽しんだりする。
 ○遊びや生活の中で、「貸して」「ありがとう」など必要な言葉を使ったり、保育者と言葉のやりとりを楽しんだりする。



言葉のやりとりがでてくる遊びや絵本、手遊びを選び、こどもたちが楽しく模倣できるようにしましょう。



- 保育者と一緒に自然物やいろいろな素材に触れたり作ったもので遊んだりする。
 ○積み木やブロックなど、手指を使う遊具で遊ぶ。



近隣公園等に散歩に出かけ園内にはない自然物に直接触れ、季節の変化を感じられるようにしていきましょう。



2歳児（第5期） 1月～3月

- ね
ら
い
- ☆保育者に見守られながら、簡単な身の回りのことを自分でやってみようとする。
 - ☆保育者や友達と一緒に体を動かしたり同じ場で遊んだりすることを喜び、繰り返し楽しむ。
 - ☆興味あることや経験したことを繰り返し表現したり、みたく・つもり遊びをしたりすることを楽しむ。

- 保育者や友達とみたく・つもり遊びを楽しむ。
- 保育者や友達と一緒に簡単なやりとりをしながら同じ遊びをすることを喜ぶ。



みたく・つもり遊びや、追いかっこ・わらべあそび歌などを通して、保育者や友達との触れ合いや関わって遊ぶ楽しさが感じられるようにしていきましょう。

- エプロンを使わずにスプーンでこぼさずに食べられるようになる。
- 簡単な衣服の着脱ができるようになり、保育者と一緒に裏返しや前後を直そうとする。
- 自分からトイレに行こうとする。
- 保育者と一緒におおかみごっこやしっぽとり、かくれんぼなど体を動かして遊ぶ。
- 自分でできるようになったことや、大きくなった喜びを感じる。

一人一人の発達段階を把握して、その子に合わせた援助をしていきましょう。個別に具体的な言葉で認めるようにしていくことで、「自分で出来た」という自信につなげていきましょう。



保育のポイント

- ★自らやろうとする姿や気持ちを受け止め、できた時には十分に認め、一人一人のやる気を高められるようにしていこう。
- ★自分でできた喜びが感じられるように言葉を掛け、保育者も一緒に喜び合うようにしよう。
- ★友達と同じ場で遊ぶ楽しさに少しずつ気付く援助をしていこう。
- ★友達と関わる楽しさを感じられるようにしていくと共に、自分の思い通りにはならない経験も積めるようにしていこう。
- ★発達や興味に合わせ、体を動かすことの楽しさを感じられるようにしよう。



- 繰り返しの言葉や楽しいやりとりの出てくる話を喜び、保育者と楽しむ。
- 生活に必要な言葉が大体分かり、したい事、してほしい事などを相手に言葉で伝えようとする。

★同じ場で遊ぶ姿が増えることで、自己主張を通したい気持ちが勝つこともあります。じっくりと互いの思いに耳を傾け、寄り添いながら場に応じた必要な言葉を知らせていきましょう。



オオカミさん、
まて、まて



- 保育者と言葉のやりとりをしながら、追いかっこ遊びをしたりリズムミカルな歌を楽しんだりする。
- 絵本や紙芝居のストーリーをこどもたちが主人公になり再現して遊ぶことを喜ぶ。（大きなかぶ、三匹のこぶたなど）

遊びのイメージを支える小道具を用意し、保育者も一緒に遊びながら想像が膨らむような言葉掛けややりとりを意識していきましょう。



- 雪、氷、霜柱など、冬の自然を見たり、触れたりして遊ぶ。
- 草花の生長に気付いたり、虫を見つけたりして、春の自然に触れる。
- 幼児組と触れ合ったり、3歳児保育室で遊んだりする。

冬ならではの現象（氷、霜柱）を感じられるよう意図的に設定し、冷たい、キラキラ等五感を刺激できるようにしましょう。

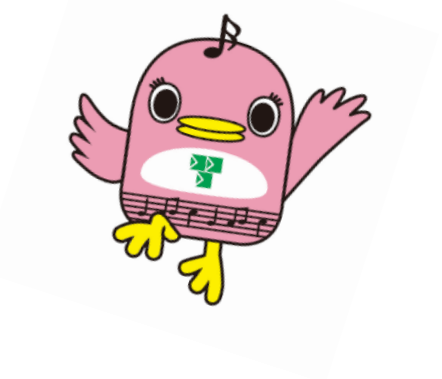


3 歳児



★ 3 歳児 ★

身の周りのことを自分で行おうとする意欲が高まり、自立心が芽生える時期であることを踏まえ、生活習慣の自立を支えていくことが重要である。体の動きが活発になり、様々な運動に挑戦しようとする姿が見られるため、安全に配慮しながら十分に体を動かせる環境を保障することが大切である。また、言葉による表現力が豊かになり、友達とのごっこ遊びを通して社会性が育まれる時期なので、安心できる人間関係を基盤に自己発揮できる場を設け、集団の中でこどもなりの力が発揮できる環境を整えていく。家庭との連携として、自己主張や気持ちのぶつかり合いが生じる時期でもあるので、一人一人の思いを受け止めながら友達との関係づくりを支え、友達の思いに気付けるよう働きかけていることを保護者に伝えていく。



3歳児（第1期） 4月～5月

- ね
ら
い
- ☆保育者に自分の気持ちや欲求を受け止めてもらいながら安心して過ごす。
 - ☆所・園生活の流れを知り、簡単な身の回りのことを保育者と一緒にしようとする。
 - ☆新しい遊具や場所に興味をもち、自分の好きな遊びを楽しむ。

- 新しい担任やいろいろな友達がいることを知り、親しみをもつ。
- 一人遊びや並行遊びをしたり、時には友達と一緒に遊んだりする。



遊びの中で、何を楽しんでいるのか、一人一人の姿をよく見ましょう。したいことを探り、十分に楽しめるよう関わっていきましょう。

- 新入園児と継続児のこれまでの経験の違いに考慮し、2グループに分けるなど保育方法を工夫して一人一人が安心して過ごせるようにする。
- 食事・排泄・手洗いなど基本的な生活の仕方を知り、保育者と一緒してみようとする。
- 保育者や少人数の友達と一緒に、追いかけて遊びや体操、踊りなど体を動かして遊ぶ。



所持品の置き場所が分かるよう、自分のマークを知らせていきましょう。



★環境の変化により心身の疲れが出やすい時期です。一人一人のこどもの健康状態や情緒の安定に考慮して、保育内容や活動の組み立て方を工夫しましょう。

保育者は遊びのモデルです。遊びに誘い掛けながら、かけっこや追いかけてなどで繰り返し走ったり、好きな体操や踊りをしたりして、保育者も一緒に楽しみましょう。

保育のポイント

- ★新入児・継続児の経験の違いや月齢差を踏まえた環境を作ろう。
- ★少人数に分かれたり、個々に対応したりするなどして、安心して過ごせるように保育者間で連携を図ろう。
- ★一人一人の思いを受け止め、「先生大好き」「園（所）が楽しい」と感じられるようにしていこう。



- 音楽に親しみ、聞いたり、歌ったりする。
- クレヨン画、粘土遊びなどのコーナー遊びをする。

描いたり作ったりすることができるコーナーを設定し、自ら選んで遊べるようにしましょう。



遊びの中で季節感のある歌や手遊び、興味のある曲などを取り入れて、「楽しい」と感じられるよう工夫しましょう。

- 毎日の生活の中で生活に必要な簡単な挨拶をする。
- 保育者に絵本を読んでもらったり、友達と同じ場で紙芝居を見たり、話を聞いたりする。

手遊び、絵本など保育者と一緒の時間がこどもは大好きです。遊びや活動を通して、言葉に関心をもてるようにしましょう。



「おはよう」「さようなら」など笑顔で明るく言葉を掛け、自然に挨拶が身に付くようにしましょう。

- 飼育物（うさぎ）や虫（ダンゴ虫・アリなど）や植物の様子に興味をもつ。
- 固定遊具や砂場・三輪車などの遊具の使い方や遊び方を知る。

★園内マップを作り、部屋に掲示したり、園内外めぐりをしたりして、新しい環境や場所に興味、関心をもてるようにしましょう。



好きな遊びを見つかけられるように興味、関心を示すような遊具を準備し、保育者と一緒に触れ合える時間や場を保障していきましょう。



3歳児（第2期） 6月～8月

ね
ら
い
☆園（所）での生活の仕方が分かり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。
☆保育者や友達のしていることに興味をもち、同じことをしたり、同じ場で遊んだりする。

- 保育者と一緒に過ごしたり遊んだりすることを喜ぶ。
- 自分と同じ遊びをしている友達に関心をもち、一緒に遊ぶとする。



一人一人に対し、「保育者と一緒に」が大切です。保育者は全員と関わりましょう。

保育者との信頼関係を基盤とし周りの子どもたちにも視野を広げていきます。

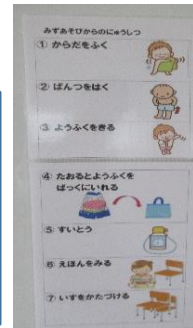


- 保育者に親しみをもち、安心して生活する。
- 所持品の始末などを自分からやってみようとする。
- 保育者と一緒に、体を動かして楽しむ。

滑り台や踏切ごっこなど、保育者のひと工夫や見守りの中で繰り返し楽しみながら、多様な動きを経験できるようにしましょう。



★個人差や家庭での経験によって、支度や始末の仕方に差があることを受け止め、安心して取り組めるようにしましょう。



水遊び時の身支度、始末など生活の仕方が変わる時はイラストや写真を掲示することで流れが分かりやすくなります。

保育のポイント

- ★「先生大好き!」「先生がいい!」など一人一人の気持ちを受け止めて、安心感がもてるようにしていこう。
- ★「できた」という満足感を生活や遊びの中で「次もやってみよう」という意欲につなげよう。
- ★友達への関心が出てくる時期なので、友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるような遊びを取り入れていこう。
- ★夏の自然や遊びを楽しみ、水や砂や泥などの心地良さを味わえるようにしましょう。



- 保育者や同じ場にいる友達と一緒に物を何かに見立てたり、再現したりしてごっこ遊びをする。
- 身近な素材や音に触れ、感じたことをのびのびと表現する。



食材にみたてられる物、家の雰囲気作り、エプロンなど身に付けられる小道具等を工夫しましょう。



実体験や経験したことを遊びに取り入れることでイメージが広がっていきます。ごっこ遊びが楽しくなるようなコーナーの環境を整えましょう。



- 自分のしてほしいことやしたいこと、困っていることなど生活に必要な言葉を、保育者や相手に言葉や仕草で伝えようとする。



こどもの気持ちを汲み取り、具体的な言葉で伝えましょう。



スポン手伝えてください

はい。お手伝いするね

- 水や砂、泥の感触を楽しみながら、様々な素材に触れて楽しむ。
- 夏の身近な自然に触れて遊ぶことを楽しむ。

砂場の砂は、衛生面や使いやすさに配慮し、あらかじめ砂を掘り起こしておきましょう。また、水を汲みやすいらいやジョウロなど必要なものを準備し、ゆったり遊べる空間や時間を確保しましょう。



カブトムシやチョウチョ、朝顔など親しみのある虫や花の生長を身近に感じられるよう、環境を整えていくと良いでしょう。

3歳児（第3期） 9月～10月

ね
ら
い

☆運動遊びや戸外遊びに意欲的に取り組み、体を動かすことを楽しむ。
☆友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさや心地よさを感じ、自分から遊ぶ。

○保育者や友達と関わって遊んだり、同じことをしたりして楽しむ。



行事や活動を通じて、異年齢児にも関心がもてるように交流の場を大切にし、関わる心地よさや楽しさを味わえるようにしましょう。



○保育者や友達と体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。
○物の置き場所や安全な使い方が分かり、気を付けて遊ぼうとする。
○生活リズムを整えながら、安心して過ごす。
○手洗い・うがい・衣服の着脱・排泄の始末など、自分でしようとする。

先生、一緒に踊ろう



保育者も一緒に遊びを楽しみましょう。

次はぼくね



自分でできるように一人一人に応じた言葉掛けや援助をしましょう。視覚的にもわかりやすく、安心して取り組めるよう絵表示で掲示するなど、工夫しましょう。



保育のポイント

- ★ 自分でやってみようとする気持ちが育つよう、時には言葉を掛けずに、こどもの姿を見守ろう。
- ★ 「何だろう」「やってみよう」と心が動く環境を整え、「遊んでみたい」「おもしろい」「もう一回」につなげていこう。
- ★ 秋の自然に興味や関心をもち遊びを楽しめるよう工夫しよう。



○ごっこ遊びやなりきり遊びを楽しみ、思いやイメージを豊かに表現する。

いらっしや
いませ



これ、ください

こどものイメージを大切に受け止め、表現する喜びや楽しい雰囲気と共に、こどもたちと一緒に遊びに必要なものを考えたりして、その日の遊びが継続するよう進めていきましょう。

○保育者や友達に親しみをもって、話し掛けようとする。

感じたことや経験したことを友達や保育者に伝えたい気持ちを丁寧に受け止め、思いが伝わる嬉しさを感じられるようにしましょう。



○身近な環境（戸外、保育室、地域など）に親しみ、「遊びたい」「やってみたい」という思いをもつ。
○木の実を集めたり、虫を探したりして、色、形、動きの変化を楽しむ。

どんぐり
あったよ



種がいっぱ
いあるよ



できるかな
やってみよう



一人一人の遊びを尊重していく中で、遊びと遊びをさりげなく関連付けていき、「もっとやりたい」という気持ちももてるよう、素材や環境を準備していきましょう。

3歳児（第4期） 11月～12月

- ね
ら
い
- ☆いろいろな遊びに興味をもち、友達と同じ遊びをしたり、模倣したりして遊ぶことを楽しむ。
 - ☆友達や保育者と一緒に表現遊びを楽しむ。
 - ☆保育者の見守りの中で、身の回りのことを自分でする。

保育のポイント

- ★「やりたい」「もう一回」とこどもが繰り返し遊びたくなるような環境ややってみたい気持ちを引き出す工夫を心掛けよう。
- ★自分でやってみようとする姿を十分に認め、自信につなげていこう。
- ★友達の存在を意識できるよう、一緒に楽しむ体験を取り入れよう。



- 冬を健康に過ごすための必要な習慣を知る。
- 生活の仕方が分かり、所持品の始末や給食の片付けなどを自分で行おうとする
- 友達と体を動かす遊びを楽しむ。



保健教育で手洗いの仕方を丁寧に知らせ、習慣づけましょう。

食器の重ね方や片付け方を知らせ、自分でできることは、自分で取り組めるようにしましょう。



上まで登るよ



歩いて回ることもできるよ

- 友達との関わりを通して一緒に遊ぶ楽しさを感じる。



運動会の経験から、友達と関わりながら遊ぶことに興味をもち始めます。友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにしましょう。

- 見たり、聞いたりしたことや自分の経験したことを簡単なごっこ遊びにして表現することを楽しむ。
- 歌ったり、踊ったり、楽器を鳴らしたりすることを喜ぶ。



★一人一人のイメージや動き、造形遊びなどの表現方法を大切に受け止め、表現する喜びを味わえるようにしましょう。

- 友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ中で、簡単な言葉のやりとりをする。
- 自分の思いや困っていること、してほしいことなどを自分なりの言葉や動きで保育者に伝えようとする。

★自分の思いを保育者や友達に伝えようとする姿を見守り、必要に応じて、具体的な言葉の表現の仕方を知らせていきましょう



ジャンケンしよう



入れて

いいよ、ここにおいて

- 運動遊具やままごとなど身近な遊具で繰り返し遊ぶことを楽しむ。
- 五感を使いながら秋・冬の自然に触れる。

繰り返し遊びたくなるよう、こどもの様子に合わせて、遊びに変化をつけたり、再構成したりしましょう。



五感を使った遊びを十分楽しめるよう場や時間を確保しましょう。

3歳児（第5期） 1月～3月

ねらい

- ☆保育者や友達と体を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。
- ☆自分の思いを言葉や動きで表現しながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- ☆できるようになった喜びを味わいながら、進級へ期待をもつ。

○いろいろな友達と遊ぶことを楽しみながら進級への期待をもつ。

友達と一緒に遊ぶ中で、新たな友達への興味や親しみにつなげましょう。



4歳児と一緒に遊んだり、保育室に遊びに行ったりして、進級への期待につなげていきましょう。

○体を十分に動かすことを楽しむ。

片づけの仕方を丁寧に確認したり、絵表示を掲示したりし、自分でできた経験を重ねることで、意欲や喜びにつなげましょう。



★いろいろな遊びや遊具の使い方を知らせ、保育者も一緒に取り組むことで、体を動かす楽しさを感じられるようにしましょう。

保育のポイント

- ★やりたいことが十分にできる時間と場を保障し興味を広げ、夢中になって楽しめるようにしよう。
- ★自分で自分のことをしたり、4歳児の保育室で過ごしたりして、意欲や安心感を高め、進級の期待につなげよう！



○自分のしたいことや思ったこと、感じたことを言葉で伝えようとする。

〇〇くんみたいに私もやりたい。



遊びを通して、順番や交代などのやりとりを経験したり、ごっこ遊びや表現遊びの中で、いろいろな言葉に触れたりして、自分の思いを言葉で伝え、豊かな表現につなげていきましょう。



○保育者や友達と一緒に簡単な劇ごっこや表現遊びを楽しむ。



動物や物になりきるジェスチャーゲームや真似っこ遊びなど気軽に表現遊びを取り入れ、楽しみましょう。

★保育者と一緒にやりきって遊ぶことで、「私もやりたいな」「〇〇役もやってみたい」などと表現することが楽しいと感じられるようにしましょう。

一人一人の表現を認めることで、安心して表現する喜びを感じられるようにしましょう。



○冬から春への自然の変化に興味をもち、その感覚を体全体で感じる。
○自分なりに生活の見通しをもつ。

表示を活用して、生活習慣が身に付いているかこどもと共に確かめましょう。進んで行動する姿や最後までやろうとする姿を十分に認め、進級することへの期待につなげましょう。



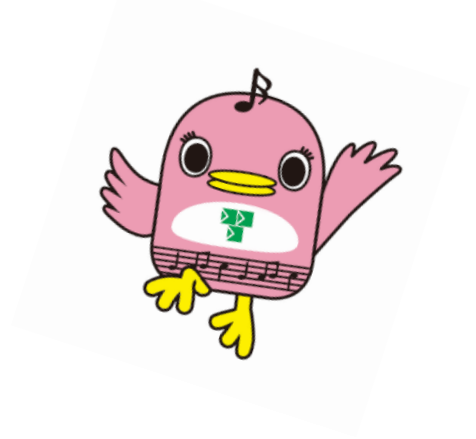
こどもが不思議に思ったことに共感することで、様々な気付きや発見を楽しめるようにしましょう。

4 歳児



★ 4 歳児 ★

生活習慣はほぼ自立してくる時期であるため、「自分でできた」という満足感を味わえるよう見守りながら、より確かな習慣として身に付けられるよう支えていくことが大切である。友達が存在が大きくなることから、一人一人のこどもの理解を深め、友達との関わりや関係性を育んでいく。意欲をもって行動しようとする姿を見逃さず、その都度認め、共感し、自己主張する時と気持ちを抑える時のコントロールができるよう支え、その様子をクラスで共有し、互いの励みや刺激となるようにする。家庭との連携として、できるようになったことを認めて自信につなげていくことや友達との思いのすれ違いや失敗などの心の揺れや葛藤経験を通して、気持ちを立て直したり、相手の思いに気付いたりする力が育まれることを、保護者と共に見守っていく。



ね
ら
い

- ☆新しい環境に慣れ、保育者や友達に親しみをもちながら、安心して過ごす。
- ☆自分のやりたい遊びを見つけ、保育者や気の合う友達と遊ぶことを楽しむ。
- ☆施設・用具・遊具の扱い方や身の回りの始末の仕方を知り、自分でやってみようとする。

保育のポイント

- ★新しい保育者や友達・新しい生活の仕方などに期待と不安が入り混じる時期なので、新入児と継続児の生活経験を配慮し、一人一人に合った援助を行おう。
- ★保育者と一緒に遊ぶ安心感の中で、側にいる友達に親しみをもったり同じことをする面白さを味わったりし、興味をもった遊びを楽しむような環境を整えよう。
- ★保育者が仲立ちとなり一緒に遊ぶ中で、友達への親しみを感じられるようにしていこう。



- 保育者や友達に親しみを持ち、安心して生活する。
- みんなと集まって集団で活動する楽しさを感じる。

簡単なリズム遊びや手遊び、追いかっけこなどの集団遊びを取り入れ、保育者や友達と遊ぶ楽しさを味わえるようにしましょう。



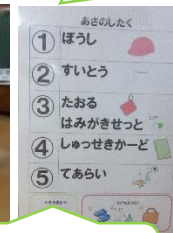
保育者の存在が友達との関わりや興味のきっかけとなるように、一人一人に合った援助をしていきましょう。

- 園での生活の仕方がわかり、自分でやってみようとする。

新しい環境での所持品の始末や生活の仕方について知らせ、やってみようという気持ちを高めましょう。

「こどもが理解できる」「安心」できる関わりや環境を整えましょう。

新しい遊具や用具の扱いは繰り返し伝えましょう。



1日の予定など園生活の仕方や手順などを絵表示や写真にして掲示することで、こども自身が確認できるようにしましょう。



- 自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。



誰でも扱え、イメージしやすい教材を用意し、安心して遊べるようにしましょう。



- 簡単な挨拶をしたり、してほしいことやしたいことを保育者や友達に伝えたりする。



ここに
入れて

〇〇作ろう。

★遊びの中で「ごめんなさい」「ありがとう」「貸して」「やめて」など場を捉えて必要な言葉を知らせていきましょう。

- 春の自然や身近な小動物に親しむ。
- 自分のやりたい遊びを見つけて遊ぶ。

身近な自然物に触れたり、遊びに取り入れたりしている姿を大事にしていきましょう。



うさぎさん、食べてね



飼育物が食べる草を見つけて一緒に集めたり、野菜をあげたりすることで、親しみや興味をもてるようにしましょう。

4歳児（第2期） 6月～8月

ね
ら
い

- ☆周囲の環境に興味をもち、自分のやりたい遊びを見つけて取り組む。
- ☆様々な素材に触れ、興味をもったり、遊びに取り入れたりする。
- ☆友達に関心をもち、気の合った友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

- いろいろな遊びに興味をもち、保育者や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- 場を共有したり同じ物を持ったりしながら、友達と触れ合って遊ぶことを楽しむ。



★遊びを繰り返し楽しめる場の確保やクラスの人数、実態に合わせた遊具の量を用意しましょう。



- 所・園生活の仕方や流れがわかり、自分でできることは自分でしようとする。
- 梅雨期・夏季の生活の仕方を知る。



身の回りのことに意欲的に取り組む姿を十分に認めましょう。

自分でできたことが実感できるように、ゆったりとした時間を保障しましょう。

保育のポイント

- ★友達への関心が高まる時期。こどもの興味・関心・発達に応じた遊具の種類や量を用意しよう。
- ★保育者に代弁や仲立ちなどを援助してもらいながら、自分の思いや感じたことを友達に伝えられるようにしよう。
- ★水や砂、泥の感触を十分に味わえるような場や時間を保障しよう。
- ★梅雨時や夏の自然、身近な動植物に関心をもてるようにしよう。



- いろいろな素材に触れて、自分の思ったことや感じたことを表現する。



大ききの違う空箱や紙、色々な色や濃さの絵の具などを準備して、表現しやすくなるような環境を整え、自由に選んで遊べる時間を確保しましょう。

- 自分なりの言葉や動きで思いを表現する。



★保育者がこどものつばやきや遊びを周囲に広め、友達と触れ合って遊ぶきっかけづくりを意識していきましょう。

ショーが始まります



どうやって色水を作るの？

- 草花の種まきや野菜の苗植えなどをして大切に世話をし、生長や収穫の喜びを味わう。
- 水の冷たさや心地よさを味わいながら水に親しむ。



植物や野菜の生長の気づきを見逃さないようにしたり、喜びに共感したりして、植物への興味がより広がるようにしましょう。



見て、トマトが少し赤くなってきた

水や砂、泥の感触を十分に味わえるように、場の設定や時間を保障しましょう。

4歳児（第3期） 9月～10月

- ね
ら
い
- ☆身の回りの環境や様々な活動に興味をもち、自ら関わって遊ぼうとする。
 - ☆体を動かして遊ぶことや、友達と一緒に活動に取り組むことの楽しさを味わう。
 - ☆気の合う友達との関わりの中で、自分の思いを表しながら遊びを楽しむ。

○自分の思いやイメージを表して、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。

初めての遊びには、保育者も一緒に仲間に入り、楽しさを共感しましょう。



「一緒にやろう」「楽しかったね」など、友達の思いや考えに気付けるようにし、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにしましょう。

○友達や保育者と簡単なルールのある遊びを楽しみ、体を十分に動かして遊ぶ。
○自分でできることは自分です。（所持品の始末、手洗い・うがい、衣服の調節など）



一人一人の頑張っている姿や楽しんでいる姿を認め、繰り返し試そうとする気持ちや自信につなげていきます。

保育者や友達と一緒に体を動かす遊びを取り入れ、「やってみたら楽しかった」「できた」という経験を積み重ね満足感や次への意欲につなげていきましょう。

保育のポイント

- ★緊張や不安など心の変化を見逃さず、こどもの思いを受け止めたり、認めたりして一人一人に丁寧に関わっていきましょう。
- ★これまで楽しんできた遊びをもとに、体を動かして遊ぶ楽しさを存分に味わえるようにしましょう。
- ★友達と一緒に遊んだり、一緒に取り組んだりすることが楽しいと感じられるようにしましょう。
- ★秋の自然に関心をもち、見たり触れたりして遊べる環境を工夫しよう。



○自分のイメージや思いを表しながら、友達と遊ぶ楽しさをを感じる。

イメージが広がるような遊具や時間・場の確保をすることで遊びが充実します。

こどものイメージが実現できる環境を工夫しましょう。



こどもの思いや考えを引き出せるよう、言葉を掛けたり、関わったりしていきましょう。



○友達と遊ぶ中で自分が思ったことや感じたことを伝えようとする。



自分の思いを言葉で表すことが難しい姿もあります。思いのずれ違いから、トラブルになることもあります。保育者がこどもの思いを代弁したり、仲介したりして、思いを伝え合いながら遊びを進められるようにしていきましょう。

もっと高くしてみよう



○自然物を遊びの中に取り入れ、見たり触れたりしながら興味をもつ。

こどもの発見や感動、好奇心を見逃さず共感し、興味や関心につなげていきましょう。



年長さんに教わったよ



木の葉などは、遊びに生かせるよう種類別に入れたり、名前の表示を付けたったりして、環境を整えましょう。

4歳児（第4期） 11月～12月

ね
ら
い

☆いろいろな遊びや活動に自ら関わり、意欲的に取り組む。
☆自分のイメージや考えを出し合いながら、遊びに必要なものを描いたり作ったりして、友達と遊ぶことを楽しむ。

保育のポイント

- ★イメージを共有しながら友達との遊びが十分楽しめる援助をしよう。
- ★友達と一緒に共通のルールで遊ぶ楽しさが味わえるようにしましょう。
- ★自分なりの思いを表現できる場や機会を設けよう。



- 体を十分に動かして遊んだり、自分なりのめあてをもって繰り返し取り組んだりする。
- 手洗い、うがい、衣服の調節など、冬の健康生活に必要な習慣を身に付ける。



- ★はう・くぐる・転がる・跳ぶ・登るなどいろいろな動きを楽しめるよう、環境設定を工夫しましょう。（固定遊具、移動遊具など）

きれいに
なったよ！



- 遊びや生活の中でのきまりや約束ごとを守って遊んだり、相手の思いや気持ちに気付いたりする。
- 簡単なルールのある遊びを通し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。



「○○さん、悲しそうだね。どうしたのかな？」と、友達の気持ちに気付けるような言葉掛けをしましょう。



簡単なルールのある鬼遊びやボール遊び、じゃんけん陣取りなどの遊びを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにしましょう。

- 劇ごっこ・ペープサート・楽器遊びなど身近な素材や用具を使って描いたり、楽器、言葉、動きなどで表現したりすることを楽しむ。



材料や素材を選んで使える環境を工夫しましょう。



自分なりのイメージを表現できる活動を取り入れましょう。

○○遊びに使うものを作ろう

- 友達と遊ぶ中で、自分なりの思いを話したり行動で表したりする。

- ★自分の思いが伝わる心地よさが感じられるよう、必要に応じて仲介し、相手にわかりやすい具体的な言葉で知らせましょう。



「○○くんはどう思ったの？」「そうなんだね」など、自分の思いや考えを表現できる場や機会を設けていきましょう。

- 秋や冬の自然に興味をもつ。
- 日本の伝統行事や年末の過ごし方を知る。

自然の移り変わりに興味をもち、見たり、遊びに取り入れたりしましょう。



どの木の实を使おうかな

4 歳児（第 5 期） 1 月～3 月

- ね ☆ 基本的な生活習慣を身に付け、遊びや生活のきまりを守り、進級することへの期待や自信をもつ。
 ら ☆ 思ったことや考えたことを自分なりに言葉や行動で表現したり、試したり工夫したりしながら遊ぶ。
 い ☆ 友達といろいろな活動をする中で、つながりを深め、遊びや生活を進める。

○グループやクラス全体の遊びの中で、自分の力を発揮し、友達と一緒に活動していくことの満足感を味わう。

★友達との関わりの中で、自分と違う考えがあることに気付くようにしましょう。



それいいね

互いのアイデアを認め合えるように、見守ったり、励ましたり言葉を掛けたりして、安心して自己発揮できるようにしましょう。

○もうすぐ年長組になることに期待をもって生活する。

○簡単なルールのある遊びに友達と一緒に取り組み、積極的に体を動かして遊ぶ。

当番活動の引き継ぎ、お別れ会などを通して、年長組になる喜びや期待と共に、年長児に感謝の気持ちをもてるようにしましょう。



年長組さんみたいに、やってみたい!



簡単なルールのある遊びへ誘いかけ、継続して遊んでみたいと思う気持ちをもてるようにしましょう。

保育のポイント

- ★いろいろな遊びに興味をもち、自分なりに力を発揮して取り組めるようにしよう。
 ★相手に自分の考えを伝えたり、共通のイメージをもったりして、友達と一緒に遊びを進めていく楽しさを感じられるようにしよう。
 ★冬から春への自然の様子の変化に、気付けるよう働きかけていこう。



○身体表現や劇遊びなどで遊ぶ楽しさを味わう。

○歌を歌ったり楽器で簡単なリズムを奏したりして、音楽に親しむ。



感じたことを表現して遊べるように、お面・劇の小道具・ペープサート・楽器などいつでもつくり使ったりできるようにしましょう。



イメージを膨らませ、友達と一緒に表現して遊ぶ楽しさを味わえるようにしましょう。

○自分の気持ちを言葉や動きで伝えたり、相手の気持ちを感じたりしながら遊びを進めていこうとする。

友達と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちを聞いたり、受け入れたりする経験が積み重ねられるように保育者が仲立ちをしていきましょう。



こうしたらどう?

うん、わかったよ。

○雪や霜柱、氷などの冬の自然現象や冬から春への移り変わりに、興味や関心をもつ。

○かるた・こま・すごろくなど正月の伝承遊びに関心をもって楽しむ。

こどもの発見に共感し、感動や疑問など、周囲のこどもたちにも伝えて興味・関心が広がるようにしましょう。



氷ができているね。なんでだろう?

夢中になって繰り返し遊ぶ楽しさが味わえるような場、材料、遊具の工夫をしましょう。

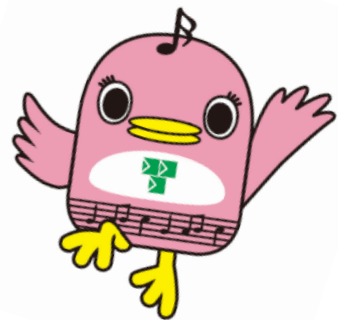


5 歳児



★ 5 歳児 ★

心身の発達が充実し、集中して取り組んだり、友達と力を合わせて活動に取り組んだりする姿が多く見られる。自分たちで考えたり、決めたりして物事を進めたりする経験、共通の目的や課題に向かって取り組む姿勢、仲間として連帯感を感じられるようにこども同士の関係をつなぐことや生活や遊びの中で問題を解決する力、他者との関係の中で自己調整する力などを育てていくことが大切である。これまでの育ちを土台にしながら、遊びの中でのこどもの学びの芽生えを育み、さらに幼児教育と小学校教育の互いの特性を理解し、小学校教育への滑らかな接続となるよう取り組んでいく。家庭とは、こどもの成長を喜び合いながら、保護者にとっても安心して就学を迎えられるよう支えていくことが重要である。



5歳児（第1期） 4月～5月

- ね ☆ 進級の喜びを味わい、新しい環境での生活を楽しみながら、年長組としての自覚をもつ。
 ら ☆ 新しい生活の場に慣れ、友達と一緒に遊んだり当番活動をしたりすることを楽しむ。
 い ☆ 健康、安全などの望ましい習慣や態度を身に付ける。

保育のポイント

- ★年長組になった喜びを感じながら、自分たちで生活を主体的に整えていけるようにしましょう！
- ★新しい環境での生活を楽しみ、友達や保育者とのつながりを感じられるようにしましょう！
- ★春の自然や身近な動植物に興味や関心をもち関われる場の保障をしよう。



- 新しい環境に慣れ、年長組になった喜びや自覚をもつ。
- 友達と戸外で思いきり遊び、体を十分に動かす。



自分たちで片づけるよ

当番やるよ！
任せてね！



大丈夫？
手伝うよ！



自分より小さな学年の子どもや新入児が喜ぶような関わり方を一緒に考えていきましょう。



元気にかけっこ

★遊具や用具の正しい使い方を確認したり、避難訓練や交通安全指導を経験したりする中で、安全に対する認識や関心を高めていきましょう。

- 気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、互いに思いや考えを出し合ったり行動で表したりしていく。

水に浮かせたらどうなるのかな？



浮いたよ

友達や保育者の話を聞いたり、自分の考えを話したりする場を作り、互いの思いが伝わるようにしましょう。

保育者が言葉を掛けたり、子どものつぶやきに耳を傾けたりして友達との関わりがもてるようにしましょう。

すごいね。ほくも作ってみたい

- 絵本で見たり、物語で聞いたりしたことを遊びの中に取り入れる。

歌いながら動かしてみようよ



いろいろな素材や用具を使い、描いたり作ったり、ごっこ遊びに必要な物を自分たちで作って遊んだりできるように、コーナーを整えましょう。

- クラス全体で行う活動に友達と一緒に参加しながら、集団としてのつながりを楽しむ。

一緒に遊ぼう！



子ども同士の関わりを見守りながら、必要に応じて仲立ちしていきましょう。

- 春の自然に触れ、様々なことに関心をもつ。
- 自分たちが生活しやすいように、保育者と一緒に環境を整える。

自然に触れる機会や絵本、図鑑を用意し、興味を広げたり調べたりできる環境を整えましょう。



見てみて！虫が動いているよ



ロッカーには〇〇を置くんだよ

生活の仕方や遊びの約束事を子どもと一緒に再確認し、子ども自身が意識できるようにしましょう。

5歳児（第2期） 6月～8月

ね
ら
い

☆考えたり試したりしながら、興味をもったことに繰り返し取り組む。
☆工夫したり、協力したりして友達と一緒に活動する楽しさを味わう。

○友達と遊びを進めていく中で、イメージや考えを伝え合いながら一緒に遊ぶ。



この積木を使ってみよう

友達とのやりとりを通して遊びが発展していく時期です。必要に応じて、それぞれの子どもが自分の思いを伝え合う場を設け、関わりがさらに深まるようにしましょう。

○自分の体や健康に関心をもち、大切にする方法を知り進んで取り組む。
○水遊びや砂・泥遊び、プール遊びなど、夏ならではの遊びを通して、水に親しむ。



★自分の体の仕組みを知り、行動の意味を理解して、健康に過ごすために必要なことを、自分でできるようにしていきましょう。

水遊びや泥遊び、当番活動など、遊びや生活の中で目標をもって取り組み、自分の力を十分に発揮できるようにしましょう。

保育のポイント

- ★“明日もやりたい”と、継続して遊びを楽しめる環境を作ろう。
- ★遊びのヒントや題材を出しながら子どもたちと遊びを深めていこう。
- ★水や砂の特性を知り、友達と一緒に夏ならではの遊びを思い切り楽しめるようにしよう。



○いろいろな材料を組み合わせて、自分たちの生活や遊びに必要なものを作る。



自分たちで作ったよ

★材質、形態、使いやすさなどに考慮し、子ども同士の表現が影響し合える場や物の配置を工夫しましょう。



一緒にやってみる？

○経験したことや思いを言葉で表現し、相手に伝えようとする。



はい、どうぞ

これ、ください

こどもの生活経験が再現できる遊びを広げていくことで、会話や話し合いが生まれます。友達同士での思いの伝え合いを通して、語彙数を増やし、正しい言葉の使い方を知る機会にしていきましょう。

○身近な環境に触れ、試したり工夫したりしながら遊ぶ。
○梅雨期から夏にかけての自然や動植物の様子に興味、関心をもち、進んで世話をしたり野菜を収穫したりする。



10のかたまりにして、数えてみよう

花びらをすりつぶすと色が出てきたよ。



いろんな色の色水ができたよ

草花や虫、水や砂などに触れ、試行錯誤しながら遊べる環境を作りましょう。

- ね
ら
い
- ☆共通の目的に向かって、グループやクラス全体で取り組む楽しさを味わう。
 - ☆自分のめあてに向かって繰り返し挑戦したり、試したりする。
 - ☆友達との信頼関係の中で、自分の考えを伝えたり相手の思いを受け入れたりしながら行動する。
 - ☆季節の変化に気付き、自然物を使った遊びを楽しむ。

保育のポイント

- ★ “やってみよう” “試してみよう” と思える環境を工夫しよう。
- ★ 友達との葛藤の中で、自分なりの答えを出せるように丁寧に仲立ちをしていこう。
- ★ クラス全体で取り組む活動と、個や少人数でじっくり取り組む活動のバランスを考えよう。



○いろいろな運動に興味をもち、力いっぱい体を動かす。



多様な動きを経験する中で、少し難しいことにもチャレンジして、自信や達成感につなげていきましょう。

★子どもたちが扱いやすい補助教材を活用し、友達と一緒に考えたり、相談したりして、自分たちで楽しく進められるようにしましょう。

○チームとしてのつながりややり遂げた満足感を味わう。



遊びに必要な道具や用具を自分たちで準備したりや片付けたりすることで、自分たちで遊びを進める楽しさにつながっていきます。子どもたちの姿を見守りましょう。

○見たこと、聞いたこと、感じたことを表現して楽しむ。



イメージが広がり、工夫が生まれる素材や量を準備していきしょう。



心が動き思いのままに表現できる活動や教材、素材を工夫しましょう。

○友達と一緒に遊びを進めていく中で、互いの意見を言葉で伝え合う。



次、これはどう？

視覚的教材や表示など環境を工夫することで、対話ややりとりも深まります。

どうしようか。

いいね！

○秋の収穫物や虫探しなど、自然体験を通して季節の変化を感じる。
○用途に合った素材を選んで使い、遊びに生かす。



収穫の喜びを味わいましょう。

○個あるね

ダンボールや箱積み木など自由に使って遊びの拠点が作れる環境と毎日継続できる時間を保障しましょう。

いろいろな木の実があるね

遊びを通して、数・量・形に関心がもてるようにしていきましょう。

ね
ら
い

☆友達と一緒に考えを出し合いながら、共通の目的をもち遊びを進めていく。
☆自分の力を発揮し友達と力を合わせてやり遂げる満足感を味わう。

保育のポイント

- ★友達同士で話し合いを進められるような環境設定をし見守っていこう。
- ★遊びの中で一人一人が自分の力を発揮できるようにしていこう。
- ★いろいろな自然の変化に気付けるような環境設定の工夫をしよう！



○体を思いきり動かす心地よさや、グループやチームの友達と力を合わせる楽しさを感じながら一緒に遊ぶ。



くるよー！

チームを意識できるルール遊びを紹介しましょう。遊びに必要な道具（ラインカーやボール）は、いつでも使えるようにしておきましょう。



★こどもの実態に合わせて、壁あてができる場を確保したり、キャッチボールをする場を設けたりするなど段階的に取り組むことで楽しさを感じられます。

任せて！

★こども達の参加人数に合わせ、コートの広さを工夫したり、参加することも自分の力量に応じてコートを選ぶように2種類設定したりして、初めてでも参加しやすくなります。

同じチームの友達に声を掛けながら遊んでいる姿を認め、自分たちで遊びを進めている様子を見守っていきましょう。

○友達に自分の思いを伝えたり、考えを聞き受け入れたりしながら一緒に遊びを進めていこうとする。



もってってくれる？

いいよ！

同じ遊びを楽しむ友達同士で遊びに必要な物を準備したり、作ったりしている時は見守るようにし、こどもが自分たちで作りあげる喜びと満足感を味わえるようにしましょう。



こうするといいよ

ほんとだ、すごいね

○曲の雰囲気やリズムを感じながら、みんなで演奏する心地良さを感じる。

★友達と目を合わせながら奏することができるように向かい合わせに楽器の設定を工夫するなど、タイミングが合わせやすくなります。

こどもたちとパート毎に奏する楽器を選んだり、曲にオリジナルの歌詞をつけたりすることでクラスみんなの曲として演奏する楽しさを感じられるようにしましょう。

一緒に奏してみよう。せーの！



ソの次はミだよ！



○絵本や物語を見聞きたり、いろいろな歌や曲を聞いたりして感じたことや思ったことを言葉で表現する。



★始めは自分の思いを伝えやすい2人組から、少しずつ話し合いが成立する人数を調整することで、話す楽しさや人に聞いてもらえる喜びを味わえます。

お話作りやペープサートなどの遊びを紹介し、自分の思いやイメージを言葉や形にして伝える楽しさを感じられるようにしましょう。

○秋から冬の自然に触れて遊ぶ中で、美しさや不思議さに気付いたり、遊びの中で生かしたりしていく。
○今までに経験した遊び方や素材などを遊びに取り入れる。



マリオネットができたよ



木の実を種類別に分類して置くことで、形からイメージを膨らませたり、自分が使いたい形や大きさを選んだりする喜びや満足感を味わえるようにしましょう。

芋のつるが長いことに気付けるように、こどもと一緒につるを広い場所に運んだり、伸ばしてみたりして、他の遊びにもつなげていきましょう。

動かしてみよう

椅子を作ろう！



縄跳びみたいだな！



ね
ら
い

☆繰り返し挑戦して取り組む中で、目的や課題を達成する喜びを味わい、自信や意欲を高める。
☆友達と共に過ごす喜びを味わい、協力しながら自信をもって生活を進めていく。

保育のポイント

- ★生活や遊びなど、自分で考えて行う姿を見守り、できた達成感を意欲につなげていこう。
- ★文字や数、形などへ興味をもてるような教材の工夫をしていこう。
- ★就学への期待や不安な気持ちを受け止め、自信をもって園（所）生活を楽しくめるようにしていこう。



- 自分が赤ちゃんだった頃を思い出して成長を実感する。
- チームやクラス対抗で行う鬼ごっこで体を温めたり、仲間意識を高めたりする。

小さいクラスの友達も助けるよ

★出来るようになったことに気づき、自分の成長を実感できるようにします。



ジャンケンポン!

★鬼遊びの後はチーム毎に振り返りをし、友達の良さを改めて感じられるようにします。



「開戦ドン」「ジャンケン鬼」などを通し、友達を助けたり、助けられたりして仲間意識を高めましょう。

- 今までの遊びの経験を生かし、考えを出し合いながら遊びを進め充実感を味わう。
- 幼保小交流を通して1年生になることに期待や喜びをもつ。

やあー!



得意技を披露して、達成感や満足感を味わうことで、さらに自信がもてるようにしましょう。

友達の素敵だと思うところを発表し合う場を設けることで、お互いの自信につながるようにしましょう。



ランドセルだよ

小学生との交流を通して、机と椅子に座ったり、ランドセルを見せてもらったりして、就学への期待が膨らむようにしましょう。

- 自分なりに課題をもち、やり遂げた喜びや満足感を味わう。

友達と同じ目標に向かって取り組んだことを披露する場や、友達から刺激を受けて取り組む場を設けましょう。



みんなできた

★最後まで諦めずに頑張る気持ちや、やり遂げた達成感、満足感を、次の活動への意欲や目標に向かって取り組むことにつなげていきましょう。



ほくもやってみる。

- 文字や数字に関心をもち、生活の中に取り入れる。

〇〇ちゃんに手紙を書こう



次は掃除のやり方です。



当番活動の引継ぎでは、自分たちが行ってきたことを、絵表示と一緒に言葉で伝え、4歳児へ引継ぎしましょう。

- 冬の季節を遊びや生活の中で感じられるようにする。
- 遊びの中で小学校の雰囲気味わえるようにする。

花や色水を入れたらどんな水ができるか、試してみよう



こどもが今までの体験を通じて学んだ見方・考え方を生かせるよう援助や環境を工夫しましょう。



小学校ごっこは楽しいな。自分の名前を書いてみようかな...



今しか味わえない自然現象を逃さず、友達と一緒に十分に味わえるようにしましょう。

資料

発達のみちすじ表

0歳 ～ 1歳半

1歳半 ～ 3歳

3歳 ～ 4歳

4歳 ～ 6歳

発達のみちすじ表 <0歳~1歳半頃>

	0か月	6か月	1歳	1歳半	実践の重点
身体的発達	<p>生理的反射 (呼吸・吸飲・まばたき・咳・くしゃみ・瞳孔反射など) 生連存続</p> <p>原始反射① (把握反射・足指反射・驚き反射・自動歩行・哺乳反射など)</p> <p>共鳴動作② → 上下左右を追う ・暖色を好む ・一点をじっと見る</p> <p>→ 左右180度の往復可逆追視③</p> <p>→ 上下80度の往復可逆追視</p> <p>→ 360度の追視</p> <p>・自分で頭を上げる → 首がすわる ・胸を上げる(腹ばい)</p> <p>・体の動きに頭が遅れず動く → 重心の側方移動(横向き) ・仰向けから横向きになる(上半身での回転性の寝返り)</p> <p>→ 仰向けからうつ伏せ → 寝返りの完成 ・うつ伏せから仰向け 手掌支伏位④がとれる</p> <p>→ 後方に下がる後ろばい(腕を突っ張る) → 腹ばい(足の第一趾を中心として蹴って前に進む) → 後方交差型四ばい(尻を上げ胸が上がる) → 高ばい(膝を伸ばして両手、両つま先のみ着地) → 前方交差型四ばい(左手→右手→右足→左足のロコモーションになる)</p> <p>→ つかまり立ち⑦ → 伝い歩き → ハイガード歩行(手を上に) → モデルガード歩行(手が中間の位置) → ローガード歩行(手を下にして)</p> <p>→ 産る事が出来る⑥ → 長座り(足を前にして) → 正座⑧</p> <p>屈曲姿勢 → 左右対称姿勢(手と手、足と足を合わせる) → 手足の伸展運動(伸ばしたり、縮めたり) → パラシュート反応(体が下に落ちる時、手足を細部まで開く) ・座位から前に倒れそうになる時、体を手で支える</p> <p>→ 首の立ち直り反応(体のバランスを崩した時に頭を中心の位置に戻すことが出来る) ・体が左右に倒れそうになった時、手を伸ばして支える</p> <p>→ 保護伸展反応(体のバランスを崩した時に体を支える)</p> <p>・握らせるとわずかな間保持できる → 手もみじ状に開く⑨ → 熊手型でつかむ(積み木を持ち変える) → 親指を使ってつかむ(母指対向操作) → 親指とひとさし指の指先でつまむ(尖指尖向操作)⑩</p> <p>・7日ではっきりした音に反応 → 母親の声を聞き分ける</p>	<p>→ 前後左右の逆方向が追えることである。これは首のすわりと大きな関係がある。首の発達はその他咀嚼等にも大きな関係があり、発達上重要である。</p> <p>→ うつ伏せから仰向けにうつ伏せから手掌支伏位④がとれる</p> <p>→ つかまり立ち⑦ → 伝い歩き → ハイガード歩行(手を上に) → モデルガード歩行(手が中間の位置) → ローガード歩行(手を下にして)</p> <p>→ 産る事が出来る⑥ → 長座り(足を前にして) → 正座⑧</p>	<p>→ つかまり立ち⑦ → 伝い歩き → ハイガード歩行(手を上に) → モデルガード歩行(手が中間の位置) → ローガード歩行(手を下にして)</p> <p>→ 産る事が出来る⑥ → 長座り(足を前にして) → 正座⑧</p>	<p>→ つかまり立ち⑦ → 伝い歩き → ハイガード歩行(手を上に) → モデルガード歩行(手が中間の位置) → ローガード歩行(手を下にして)</p> <p>→ 産る事が出来る⑥ → 長座り(足を前にして) → 正座⑧</p>	<p>①原始反射は6か月までには殆ど消滅する。適切な時期に消滅することが、次の発達に非常に重要となる。</p> <p>②共鳴動作とは、生まれて一週間のこどもが20cm離れた場所が見え、繰り返される動作を真似ること。これはコミュニケーションの基礎となる行動であり、20cmという距離は授乳の時の親と子の距離に等しい。したがって抱いて授乳することは、コミュニケーションの形成上重要である。</p> <p>③可逆追視とは、上下左右などの逆方向が追えることである。これは首のすわりと大きな関係がある。首の発達はその他咀嚼等にも大きな関係があり、発達上重要である。</p> <p>④手掌支伏位とは、うつ伏せで両手の平をしっかりと開いて床につけ、腕を伸ばして胸をあげ、身体を支える姿勢。足が先行した寝返りが出来、手掌支伏位がとれることが、次のはいはいの質に大きな影響を及ぼす。手掌支伏位の姿勢を十分にとらせることが重要。</p> <p>⑤望ましいはいはいとは、次の4つの条件を満たすことが大切。第一は首を起して前方を見ながらはう。これは、歩行を獲得した後のバランスの保持に重要。第二はしっかりと開いた手の平と伸ばした指先で身体を支えること。第三は足の第一趾を中心としたつま先で床を蹴って前進すること。第四はロコモーションの問題であり、手足の左右交差パターンが確立していることが重要。</p> <p>⑥6か月頃から大人が座らせると座位の姿勢を保持できるがこうした受動的座位は自由のきかない姿勢で好ましくない。7~8か月頃からははいはいになるようになり、自力で座りする。自主的、能動的座位がとれることが大切である。</p> <p>⑦自力で立てないこどもに歩行練習をすることは、段階を飛び越した働きかけであり、その後の歩行の高次化につまづきを示す場合もある。例えば転びやすい傾向をもっていたり、転んだ時に手を伸ばして体を支えることができなかったり、顔や頭に怪我をしやすい、したがって保育の中では歩くことを集らず、高遠いなどの運動を十分に保障し、ゆっくり歩行の獲得を見守ることが必要。</p> <p>⑧発達保障のためには、こどもの発達段階に応じた活動の中に、発達抵抗を組織していくことが重要。例えばハイハイや歩行の運動の時、坂や階段を登ったり降りたりするなど、やや難しい経験ができるようにする。</p> <p>⑨こどもは「屈曲優位から伸展優位」へと発達していく。握った状態の手も5か月ごろになると、きれいにのみじ状に開く。この手の開きは発達上重要であり、開きの悪い場合は発達につまづきがある場合が多い。</p> <p>⑩こどもの手指は「小指側から親指側」へと機能分化していく。母指対向操作~尖指対向操作への獲得は、対話能力の獲得に重要である。</p> <p>⑪こどもは日常生活の中でまず最初に目や耳や体全体を使っている意味的経験を、その経験とその時に発せられる周囲の人々との言語音と結びつけて、言葉というものの意味や機能を取得していく。</p> <p>⑫手当たりしだいに物をいじりまわしたり、探索したりすることでこどもは物の性質や意味を学びとる。したがって物を壊したり、汚したりすることを嫌って、叱ったりすると、こどもの好奇心の満足や抑制してしまい、しいては知的発達に影響を及ぼす。したがって危険のない環境を整え、十分な経験をさせていきたい。</p> <p>⑬大人との一対一の関わりや親身な世話を通して、親密なコミュニケーションを経験し愛されることの心地よさを認識できるようになる。こうした人とのかかわりや関わり合いの心地よさが特定の大人との「基本的信頼感」をつくる。</p> <p>⑭おはしやぎ反応はこどもにとつて、最初の対人関係の中で美しくあり、後に音声言語を獲得していくための土台となる。こどもの十分な関係を持つことが重要。</p> <p>⑮二者を中心とした外界との関わりから「こども-大人-第三者(物)」という関係が成立する。これが三項関係である。三項関係が形成されると、外界との関わりが大きく変化する。大人の指差しに反応するかなど、三項関係が形成されているかを把握することは、発達を捉える上で非常に重要である。</p>
	知的発達	<p>鼻母音 → 喉子音(うっくううっく) → 口唇閉塞音(フッフッフ) → 初期喃語(あーあー、おーおー) → 喃語、志向の音声(まーま、ぶーぶ) → 言葉と動作が結びつく → 定位の音声(あった) → 一語分(ワンワン、マンマ)</p> <p>① 認知 (手先でいじる、口に入れてなめる、振る、ひっぱる、目の前で見る) ② 志向の指差し → 要求の指差し(模倣のできはじめ) → 定位の指差し → 可逆の指差し(大人の質問に答える)</p>	<p>→ 初期喃語(あーあー、おーおー)</p> <p>→ 喃語、志向の音声(まーま、ぶーぶ)</p> <p>→ 言葉と動作が結びつく</p> <p>→ 定位の音声(あった)</p> <p>→ 一語分(ワンワン、マンマ)</p>	<p>→ 喃語、志向の音声(まーま、ぶーぶ)</p> <p>→ 言葉と動作が結びつく</p> <p>→ 定位の音声(あった)</p> <p>→ 一語分(ワンワン、マンマ)</p>	<p>→ 喃語、志向の音声(まーま、ぶーぶ)</p> <p>→ 言葉と動作が結びつく</p> <p>→ 定位の音声(あった)</p> <p>→ 一語分(ワンワン、マンマ)</p>
心理的発達	<p>・快と不快の分化 ・泣き笑いの分化 二項関係⑬</p> <p>→ 人間の顔に対しての ・社会的快 ・おはしやぎ反応⑭</p> <p>→ 人やされると声を 出して笑う ・誰にでも反応</p> <p>→ 見慣れた人 にのみ笑う 人見知り ・不安や恐れを感じる</p> <p>→ 大人との相互 ・交渉の芽生え ・自分の発見 三項関係⑮</p> <p>→ 自他の区別</p> <p>→ 自我の芽生え</p>	<p>→ 人やされると声を 出して笑う ・誰にでも反応</p> <p>→ 見慣れた人 にのみ笑う 人見知り ・不安や恐れを感じる</p> <p>→ 大人との相互 ・交渉の芽生え ・自分の発見 三項関係⑮</p> <p>→ 自他の区別</p> <p>→ 自我の芽生え</p>	<p>→ 人やされると声を 出して笑う ・誰にでも反応</p> <p>→ 見慣れた人 にのみ笑う 人見知り ・不安や恐れを感じる</p> <p>→ 大人との相互 ・交渉の芽生え ・自分の発見 三項関係⑮</p> <p>→ 自他の区別</p> <p>→ 自我の芽生え</p>	<p>→ 人やされると声を 出して笑う ・誰にでも反応</p> <p>→ 見慣れた人 にのみ笑う 人見知り ・不安や恐れを感じる</p> <p>→ 大人との相互 ・交渉の芽生え ・自分の発見 三項関係⑮</p> <p>→ 自他の区別</p> <p>→ 自我の芽生え</p>	<p>⑬二者を中心とした外界との関わりから「こども-大人-第三者(物)」という関係が成立する。これが三項関係である。三項関係が形成されると、外界との関わりが大きく変化する。大人の指差しに反応するかなど、三項関係が形成されているかを把握することは、発達を捉える上で非常に重要である。</p> <p>⑭おはしやぎ反応はこどもにとつて、最初の対人関係の中で美しくあり、後に音声言語を獲得していくための土台となる。こどもの十分な関係を持つことが重要。</p> <p>⑮二者を中心とした外界との関わりから「こども-大人-第三者(物)」という関係が成立する。これが三項関係である。三項関係が形成されると、外界との関わりが大きく変化する。大人の指差しに反応するかなど、三項関係が形成されているかを把握することは、発達を捉える上で非常に重要である。</p>

	0か月	6か月	1歳	1歳半	実践の重点	
生活	睡眠⑮ ・昼と夜の区別不明瞭 ・夜8時間以上の睡眠(夜をとらえる) ・生活リズムの確立	・昼の目覚めが10時間以上になる(昼寝3、4回)	・午前1回・午後1回の昼寝 ・午後1回の昼寝(1～2時間)		⑮睡眠中のこどもの顔色、呼吸の状態をきめ細かく観察するよう心がける。(SIDSチェック)うつ伏寝はできるだけ避け、顔の周りに布団や物がなく、正常に呼吸が出来るような状態をつくる。	
	授乳、食事⑯ ・授乳3時間毎 ・一日8回程度(飲みたいたいだけ)	・一日5回程度 離乳5、6か月 ・離乳食1回(どろどろ状) ・授乳4回程度	離乳7、8か月 ・離乳食2回(舌でつぶせる固さ) ・授乳3回程度	離乳9～11か月 ・離乳食3回(歯茎でつぶせる固さ) ・授乳2回程度	離乳12～18か月 ・離乳食3回(歯茎で噛める固さ)	⑯授乳は成分の面でも母乳の方が優れていると考えられるが、姿勢やその他スキンシップなどの面でも優れている。したがってできるだけ母乳に近い状態を保障し、抱いて語りかけながらこどもの目を見て微笑みかけ授乳をしたい。
	・舌が上顎の吸啜に乳首を巻きつけるようにして押し込む(重力を利用) ・哺乳反射(4～6か月頃で消滅)	・舌先の前後運動と顎の運動運動 ・口唇を閉じて飲み込む ・上唇の形変わらず ・下唇が内側に入る	・上下唇がしっかり閉じる ・左右の口角が同時に伸縮 ・数回もぐもぐして舌で押しつぶし咀嚼する。	・上下唇がねじれながら協調する ・咀嚼側の口角が縮む ・舌の左右運動(咀嚼運動)	・コップを両手に持って飲むとする	⑰おむつ交換の場所は一定にし、こどもが不快から快になる大切な場面であるので、十分スキンシップを図り、語りかけと微笑を投げかけゆったり交換する。
排泄⑰ ・膀胱に尿が溜まるとすぐ反射的に排尿する	・排便反射(授乳後すぐ排便) ・一日2回程度 排便	・便が固くなり、いきむようになる ・意識的にいきむ	・尿間隔2時間以上尿意をもよおす ・尿がためられる ・便秘抑制 ・我慢、知覚	⑱排尿行動を意識化させるために、排尿間隔が2時間以上になったら、トイレやオマルで排尿させてみるのが良い。この時失敗することのほうが多いことを覚悟し、失敗しても決して叱らないよう心がける。		
遊び	あやし遊び (いないいないばー) ・見たり聞いたりする ・つかんだり、ひっぱたりする ・しゃぶったり、なめたりする ・音のする方、光の方を見る	ゆさぶり遊び ㉑ (たかいたかいかい、お船はぎつちらこ) ・玩具を振り回す ・ひっぱたり、押ししたりする ・音の出る方に首を向ける ・聞きなれた音に耳を傾ける	やりとり遊び (ちやうだい、まてまて) ・音のするものに興味をもつ(つかんだり、叩いたり、振る) ・入れたり出したりする ・物をつまむ ・ボールを追いかける ・おつむてんてん、いないいないばーを真似る ・リズムに合わせて体を動かす ・人の真似が盛んになる ・動物に関心を持つ	模倣あそび ・わらべ歌遊び ・押したり、ひっぱたりして歩く ・乗ったり、降りたり、すべったりする ・ころがして追いかける ・両手を使って音を出す ・リズムに合わせて体をゆする ・積み木を積みだり並べる ・蓋の開け閉めをする ・砂場にどっかり座って遊ぶ ・水遊びを遊ぶ ・身近な動物の鳴きまねをする ・スコップやコップを使って、砂遊びや水遊びをする	㉒6か月頃からこどもは、大人の歌やリズムカルな声でけで、体を揺すられてあやされる「揺さぶり遊び」を好み、平衡感覚を養っていく。揺さぶり遊びの中で「首の立ち直り反応」や「保護伸展反応」が確かに獲得されていく。しかし、あまり低月齢のこどもに激しい揺さぶりをすることは、脳が完全に形成されていない状態なので危険である。こどもの発達に合った揺さぶりをやっていくことが重要である。	
	配慮点 ・衛生的で安全な環境をつくり、常に体の状態を細かく観察し、疾病や異常は早く発見し快適に生活できるようにする。 ・一人一人の生活リズムを重視し、食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・こどもの泣くという要求表現に対して、大人がその表現を受け止め適切に世話をし、生理的快、社会的快の状態を保障して、基本的信頼関係をつくっていく。その上で目と目を合わせた「あやし遊び」「揺さぶり遊び」などを繰り返し行うことにより、コミュニケーションの基礎を培い、活動意欲や要求を表現する力を育てることが重要だと考える。さらにこうした遊びを通して、首の立ち直りを強くし発声の土台を育てると共に平衡感覚を養っていく。 ・歩行を獲得していくための、前段運動である寝返り、はいはい、伝い歩きなど、それぞれのみちすじを大切に、発達をより見極め、適切な時期に獲得することができるように援助する。この時重要なのは、「いつできた」ではなく「どのようにできているか」ということである。一つ一つの動きを質・量ともに豊かに保障し、十分に行うことが大切である。特にはいはいは、広い空間とともにはいはいをする仲間を保障しながら楽しく経験していく。 ・全ての発達の基礎は特定の大人との親密な関わり(二項関係)であり、それを土台として物に動きかける三項関係が成立し、より豊かに発達していく。こどもに関わる保育者は、こどもにとって人との関わり的重要性を深く認識し、豊かな愛情をもって接していくとともに、その成長発達の喜びを共有できる存在であり続けることができるようにしていく。					

発達のみちすじ表 <1歳半~3歳頃>

	1歳半	2歳	3歳	実践の重点
身体的発達	直立歩行の確立 (ローガード歩行)① ・斜面や段差を好んで歩く ・後ずさり、横歩き、友達と手をつないで歩く ・つま先歩き ・かかと歩き ・足踏み ・走る	直立姿勢 ・片足を上げる ・目をつぶって立てる ・手を下につけて片足を上げる ・少し高い所から飛び降りる ・その場でジャンプする ・繰り返して飛び降りる ・前方にジャンプ(幅跳び) ・手を前方に出して飛び降り/バランスをとって着地する	階段 ・両足を一段ずつそろえて登り、はう姿勢で後ずさり降りる ・両足を一段ずつそろえて登り降りする ・下り斜面を降りる ・片足ずつ交互に出して階段を登り降りする	①抵抗に対して好んで取り組み、乗り越えるのは活動意欲の高まりの現れである。したがってこの時期は、積極的に施設外に出て散歩するなど、発達抵抗を積極的に組織したい。 ②斜め姿勢は、手足の指先力を入れて瞬時的に体位を変動させ、バランスを復元させる。これによって四肢の左右交互性を一層確立させていくのも重要。これが基になって重心を移しながら、体を動かす様々な動作が可能になる。 ③脚がO脚からX脚に変化していく。この足の開きが目立つ場合は、一応医師の相談が必要。脚力が弱く転びやすいといった状態となるため、注意が必要となる。
	正座 ③ ・しゃがむ ・立位からしゃがんで物を拾う ・しゃがんで移動できる	親指と人差し指の指先でつまむ (尖指対向操作) ・手の左右、上下の移動 ・動く支点が一つ(往復のある描画) 手首のコントロール力がつく ・支点が2つ(肘と手首、肩と肘) ・円錐画(くるくるの円を描く)	ねじる ・容器の蓋を開ける ・扉のノブを回す ・ねじる、曲げるなど2つの動きを運動させ蓋を開けたり形を変えたりする	④道具を持ち、繰り返して使いながらその道具本来の使い方を理解し、使うことを「対象的行為」という。対象的行為は1歳半~2歳半の子どもにとって重要な活動である。この時期までのこどもは、言葉で思考するのではなく、何でも触ったり試したり、操作をしながらして思考している。豊かな発想や創造性のためにさらには言語発達のためにも、道具を使っての水遊び、砂遊びなどを十分に経験する。 ⑤1歳過ぎ頃から、少しずつ一語文を獲得し始め、1歳半頃には急速に増える。しかし語彙数によって、こどもの言語表現能力を評価することは、適当ではない。身振りや指差しなどの表現や、言語理解などのコミュニケーション能力がはっきりしていることが重要であり、これが身に付いているこどもは、急速に語彙が増えてくる。この力が不十分なこどもは、その後の言語発達につまづきや、後退を見せることもある。
	尖指対向操作の確立 ・道具に興味をもつ ・道具を道具として使う(対象的行為)④ ・左右の手の機能分化と協応			⑥それまでは、全てを「ワンワン」と表現していたこどもが猫を見れば「にゃーにゃー」犬を見れば「ワンワン」と表現が分化していく。 ⑦2歳近くなると、こどもは二語分を獲得し始める。二語分の獲得には、動詞の獲得が必要である。言葉を獲得し始める時期は、生活の中で、大人のいろいろな直接の語りかけが重要となる。 ⑧2歳半頃までのこどもは「感覚運動操作」によって思考している。したがってこれまでの探索活動は思考活動そのものであり、十分な経験が次の発達に重要である。2歳半頃からは言葉で考えることができ、「対象的行為」がその思考活動になる。こうした発達の変化を良く見極め、適した関わりをしていくことが大切である。 ⑨大人からの質問に答えることを「可逆の指差し」と言う。これは言語理解の面で1歳半の質的転換期を越えて次の段階に入ったかの指標となる。大人の言語を理解しそれによって見通しのある行動が出来るようになるということである。一人一人の育ちの状況を1歳半の時点で確認することは重要である。
一語文(名詞) ⑤ (ワンワン、マンマ) ・自分の通称が言える(みーちゃん、ノンちゃん) ・言われた事を理解し行動する(牛乳持ってきてなど、一つの指示) ・3個以上積み木を積み(積み直し、並べ直し) ・可逆の指差し⑨ 可逆の指示 可逆対(つい)指示 可逆対(つい)音声の獲得	一語文の分化 ⑥ (使い分けが出来、用い方が厳密になる。30語前後) ・質問を繰り返す(物と名の一致(なに? どうして?)) ・呼びかけの言葉+一語文(ちゃーちゃん、マンマ)	二語分(ワンワンきた) 名詞+動詞 300語前後 ・動詞の要求語(あけて、ちょうだい) ・自分の名前を入れて話しを要求する(しーちゃんねえ〇〇なんだ) ・挨拶ができる(こんにちは、いただきます) ・自分の氏名、性別、年齢クラスの名、先生、友達の名前が言える	・問いと答えの関係が成立(なんで、どうして) ・三語文他語文(形容詞を使う) ・言語で認識し考える力がつく⑩(みため、つもり) ・多い、少ないが分かる ・丸、四角を基本とした形の区別ができる(対比的認識の獲得) ・多-少、長-短、上-下の反対概念が成立し、選択、配置、表現し始める ・1つと、2つが数として分かる ・3つ以上はたくさん	
自我の芽生え ・心の中に対が出来始める(～ではない～だ) ・もっと自分が(だだこね) ・主人公になりたい(心の高まり) ・自分の席、自分の物に執着 ・場面が変わる時、心の「よりどころ」(枕、タオル、人形)を使う	自我の誕生 ⑩ ・「～ではない～だ」と自主的な決定をする ・気持ちの立ち直りが出来るようになる	自我の拡大 ・「いや」が頻繁に出る ・自分で決めた気持ちの増加 ・「ひとつ」「たくさん」が分かり、自分には最大、他者には最小 ・好きな人やロボットになりきって不安を乗り越えようとする	自我の充実 ・自分との関係の強弱で自我を制御し始める (自分より小さい子に分けてあげるなど) 二分的評価の時期 ⑪ ・よい-悪い ・できる-できない ・得意-苦手	
友達への関心=三層関係の形成 ⑫ 自分と同じレベルの友達 =いいもの探しを共有し合う存在であり、憧れたり遊具を取り合う仲間。 自分より小さい友達 =興味、関心の対象、始めは反応への不安あり、2歳になるとお姉ちゃん・お兄ちゃんとして関わろうとする。 自分より大きい友達 =好奇心の眼差しを輝かせ憧れの的。怖いこと、初めてのこども憧れの心の高まりで乗り越える。			⑪「できる、できない」など「二分的評価」をするようになると、「できなかった」事実を積み重ね、苦手意識をもつようになる。この苦手意識を乗り越えていき、自分の世界を広げていくことができるためには、大人の言葉かけが重要になる。苦手があっても、どのこどもも光輝くことがある。この光を丁寧に見出し、共に乗り越えていくことが大きな大人の役割である。	

	1歳半	2歳	3歳	実践の重点
生活	睡眠 ・午後1回の昼寝(1~2時間) → ・夜の睡眠時間(11~12時間) ⑬	・姿勢正しく食べる → ・こぼさず食べる → ・嫌いなものでも促されて食べようとする	・夜間の睡眠時間(11~12時間) ⑬ ・こぼしながらもスプーンで食べようとする → ・スプーンを上手に使うようになる ⑮ ・コップを両手で持って飲む → ・コップを片手で持って飲む	⑫対比的認識の獲得により、こどもは出来るか、出来ないか常に葛藤している。「お兄さんになりたい」「お姉さんになりたい」と思っているが、本当になれるかと不安をもっている。よくこどもの心の中を察しながら、一つ一つの思いに共感することから保育を始めたい。
	排泄 ・出たとき尿意を知らせる ⑭ ・汚れた時に知らせ始める ・不快感を感じる → ・尿意、便意を感じる → ・尿意、便意を知らせトイレで排泄する ・少しづつ我慢できるようになる ・失敗が少なくなる } 概ね3歳半	・パンツを脱いで一人でトイレやオムルに座る → ・パンツを脱がずに下ろしたままで、排泄しようとする ・自分で拭こうとする ・水を流す	・コップを片手で持って飲む ・スプーンを上手に使うようになる ⑮ ・自分で排泄する	⑬こどもは新陳代謝が盛んで、運動も活発であることから、長時間睡眠が必要である。 ⑭食事の回数は成人と同じ。朝、昼、晩の3回となり、時間帯もほぼ同様となる。しかし、まだ1食の食事での摂取できる量は少なく、栄養面で不足分を間食として補う必要がある。 ⑮スプーンや箸の使用と手指の発達とは、大きな関連がある。手の回転が出来るようになり、スプーンを自在に使うことができ、利き手の第4指が自在に動くようになることで、箸が思うように使える。こうした、手・指の機能の発達をよく把握し、個々に応じて進めていくことが重要である。
遊び	模倣遊び ・積み木を3個以上積み重ねる ・積み直し、並べ直し、器への入れ直しが出来る ・手を動かしてかくことを楽しむ(上下、左右) → ・階段を登ったり、坂道や起伏のある場所を好んで歩いたりする ・足を止めるいろいろなものに関心を持って触れたり、試したりする ⑯	・8つ以上の積み木を積み重ねる ・積み木を並べその上に積むなど2つの遊びを組み合わせる ・円など曲線がかかる } 概ね3歳~ (形の区別が分かり組み合わせ遊ぶ) ・目的をもって散歩に行く(公園に行こう、ワンワンを見に行こうなど)	・ごっこ遊び ・意図をもって表現する(縦と横の結合) ・かいたもの、つくったものに意味付ける ・散歩で、でこぼこ道や坂道を歩き、長い道のを歩くことができるようになる	⑰身辺自立は、自分で出来る喜びを味わうとともに、大好きな大人に認めてもらうことで、次の楽しいことに対し頑張ろうとする見通しの力をつけていく。したがって大人はこの達成感を共感していくことが重要である。 ⑱一見単純に見える「みたくて・つもり遊び」だが、こどもなりの世界があり、具体的にイメージがあり、意味がある。こどもはこの「みたくて・つもり」の世界の楽しさを知ると、より一層「みたくて・つもり」を豊かにしていこうとする。つまり、「みたくて・つもり」はイメージ力の「製造工場」であり、このイメージの力が、幼児期の表現を豊かにしていく。それはかく・つくるだけではなく、やがてイメージ豊かな話し言葉が文脈を作る力に結びつき、書き言葉の世界を作る土台となる。したがって、十分にこの経験ができる環境を整える必要があり、特に重要な点として、1、再現してみたい生活経験の豊かさをつくること 2、こどもたちが主人公になり「みたくて・つもり」を発展させること 3、「みたくて・つもり」のイメージの世界を保育者が共有することである。
	・わらべ歌遊びや手遊びを喜び、ところどころ真似る ・モデルを真似て音楽に合わせて体を動かす ・穴などに入れたり出したりする ・道具を使って水・砂・土などで遊ぶ ・コンビカーに乗る(始めは後ろに進む) ・滑り台・ブランコなどに関心をもつ ・絵本や指人形を喜んで聞いたり見たりする	・好きな歌を取ったり、音楽を聞いて体を動かしたりする ・自然物や生活用具に関心をもち、試したり遊んだりする ・人形やまご道具を使ってつもり遊びをする ・シールを貼ったり紙をちぎったりする ・コンビカーに乗って自由自在に動く ・本来の使い方で固定道具で遊ぶ ・粘土・砂・水などで遊ぶ ・追いかけることを喜び	・切ったり貼ったりして意味付けながら好きなものをつくって遊ぶ ・ごっこ遊びに必要なものを見つけて用途にあった遊びをする ・三輪車に乗ろうとする ・ボールで遊んだり、かけっこをしたりする ・追いかけっこ、かくれんぼ遊び ・よじ登って降りるなどの連続遊び	⑲歩行の完成と共に、こどもは日々「いいもの探し」をする。「これはいいものなんだろう」と見入ると、必ず友達がやってくる。友達が見つけたものは何でも光り輝き、その世界を共有し始める。「いいもの探し」の心が友達が見つけたものへの憧れの心を育む。憧れこそ、発達を導くエネルギーであり、いろいろなことを学んでいくための原動力である。したがって散歩や庭の散策などの活動を積極的に行ってほしい。
配慮点	・24時間の生活リズムを作ることが基本となる時期である。個のペースに合わせて睡眠のリズムをはじめとし、食事や排泄、遊びなど諸活動を毎日の生活の中で規則正しく繰り返していく必要がある。 ・対象的行為と探索活動はこの時期のこどもの思考そのものである。したがって何にでも触り、何でも試す。こうした経験ができる場所と時間を十分に保障し、満足いくまで繰り返すことで、次の言語発達を促し豊かな想像性と意欲へとつなげていく。 ・拡大する自我の育ちを大切に受け止め、切り替えしたり、意味付けたりするなどして、心の通い合う世界を共有しながら、第二自我への準備をしていくことができるようにする。 ・歩くことや、全身運動を十分に保障する。特に散歩などで、自然との関わりや友達との触れ合いなどを積極的にに行いながら、十分に歩いたり動いたりすることで、直立姿勢と二足歩行を確立していき、垂みのない体を目指していく。 ・「みたくて・つもり遊び」を大いに保障する。こどもが生活の主人公を演じ、自分のイメージを十分に広げることができるよう、いろいろな仲間と過ごせる場や時間・空間を整え、大人の適切な関わりによって、さらに人間関係や生活経験を広げていくことが出来るようにする。			

発達のみちすじ<3歳～4歳頃>

		3歳	3歳半	4歳	実施の重点及び配慮
身体的発達	姿勢・運動	<p>3歳前後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直立二足歩行が安定してくる。 ・「あおり動作を伴う踵、つま先歩行」が可能になる。土踏まずも形成されてくる。 	<p>3歳頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走る・跳ぶ・飛び降りる・登る・しゃがむなどの基本動作を獲得していく。 	<p>3歳半頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段を昇る時は片足ずつ交互に出すことができるが、降りる時は同じ段に両足を揃える。 ・階段を昇る時、降りる時、片足ずつ交互に出せるようになる。 ・得意の足でのケンケンができるようになる。 	<p>※あおり動作とは前に出した足の踵から着地し、土踏まず以外の足裏の全てをつけて体重をかけ、反対の足を前に送った後、後ろの足の踵を地面から離し、つま先で地面を蹴りながら、その足を前に送っていくことである。</p> <p>・この時期のこどもには、何よりも足腰を強くする全身運動を保障することである。走る・跳ぶ・飛び降りる・登る・しゃがむなどの基本動作が、十分に行なわれる運動遊びを積極的に行うようにする。</p>
	手指・操作	<p>3歳前後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尖指対向操作が確立する。物を拇指と示指で摘まみ、それを手のひらに握りこんで、さらに次のものを摘まむという操作を繰り返せるくらい力が育ってくる。遊びや生活の中で友達と会話をしながら、しっかりと手や手指を使うことができるようになる。 ・示指と中指を立ててジャンケンの「チョキ」で2つを表し、模倣することが可能となる。さらに環指を立てて3つを示すことができる。 ・描画活動 	<p>・円錐画(手の運動の軌跡)ではなく、閉じた一重の丸が描けるようになる。すると次第に大きい丸と小さい丸を組み合わせさせて顔を描くなど、イメージを先行させて描画できるようになる。</p>	<p>・縦線と横線を組み合わせて十字を模倣して描くことができるようになる。</p>	
知的発達	言語・認識	<p>3歳頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉が豊富になる。語彙の飛躍的増加とともに三語文や多語文などの長い言葉も話すようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話をしている人を見て、興味がある話であれば、聞けるようになる。また、絵本やお話を聞くことが楽しくなる。 ・音・色・文字・数・量・形等に興味をもち、違いに気付くようになる。 ・興味深い歌や楽器演奏を聴いて楽しむようになる。簡単な曲に合わせて手を打ったり、身体を動かしてリズムをとったりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人とのコミュニケーションを楽しみたいというこどもの気持ちを受け止め、こどもの興味・関心に沿って話しかけたり、こどもの話を聞いてあげたりすることで、積極的に会話を引き出していく。 ・言語は思考・認識の手段であるから、言語の幼さは思考・認識の幼さにつながりやすい。いわゆる幼児語(赤ちゃん語)が大人の言葉にスムーズに移行できるような配慮が必要である。 ・この時期特有のいろいろな質問に丁寧に答えてやることや、拒否反応に丁寧に付き合ってやるのが大切である。そうすることによって、コミュニケーションの手段としての言語能力及び思考・認識の手段としての言語能力を高めていくことになる。 ・こどもたちの生活の中で、興味深いものが登場する絵本を見たり、読んでもらったりする環境や機会を設けるようにする。絵本の読み聞かせ、絵本の中の事柄についての知識を育てることや描画遊び言葉遊びなども始めることが大切である。 ・音・色・文字・数量・形などについて、興味関心を生活の中で持たせていくことが必要である。 ・歌や楽器演奏を聞いて、楽しむ機会を増やし親しませていく。 	
	自己形成	<p>3～4歳頃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもは、乳児期に形成した自我と、次いで形成中の第二自我という二つの自我世界の中で生きようになる。自我は身体が求める要求の自我であり、第二自我は、社会的存在としての自分がどう行動すべきかという規範の自我である。この二つの自我を自分の中で対話させながら、自分はこのことをしたいが、今はこういうふうに行動した方が良さだろうという自己決定するのがなかなか難しい時期である。自我と第二自我は、まだ別々のものとして存在し、なかなか結びつけられないのである。 ・言っていることはなるほどと思わせるものがあったとしても、実際にやっていることは、やりたいことをやっているだけということも珍しくない。この時期のこどもは、他人に厳しく自分に優しい態度を示したり、他者の考え方や言動についてわからないでぶつかったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの言葉を聞き逃さず、受け止め、共感していくことが大人の対応として重要である。 ①寒生活の中で起きる様々なトラブルに丁寧につきあい、一緒に折り合いをつけていく。 ②手遊び・歌遊び・絵本・紙芝居・人形劇という世界をこどもと共有する。 ③ごっこ遊びの世界に入りこむことを促し、共感する。 ④こどもが語るつづがやきの世界に耳を傾ける。 		

	3 歳	3 歳半	4 歳	実践の重点及び配慮
生活	<p>睡眠</p> <p>3 歳頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜の睡眠時間は11～12時間。昼寝もしない子も見られる。 		<p>4 歳頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 着を使って食事をするようになる。 友達と楽しく食事をする。 嫌いなものでも少しずつ食べようとする。 よく噛んで食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 24時間生活リズムの確立が基本となる。睡眠・食事・排泄・清潔・着脱などの基本的な生活習慣をほほ身に付けて身辺自立ができるようになっていく。また、人とのかわりが増える中で挨拶や身のまわりの整理、交通安全などの習慣についても注意を向けられるようにする。 大人が生活の中でやって見せたり、コツを知らせたりしながら、自分なりにやってみようという気持ちを大切に。少しでもできたことを認め、できたこと、がんばったことの喜びやうれしさに共感し、自信や意欲を持たせていく。 どんなお手伝いや用事に興味・関心を持って取り組めるのか、また、先生や友達のためになったという気持ちを持てるのかなどを考慮しながら、手伝いの場面を意図的に設けるようにする。 園内外の四季折々の自然に触れる機会を十分持ち、自然の美しさや不思議さなどの気付きを大切に。そのためには、大人が自然の様々な変化や現象に敏感でなければならぬ。
	<p>食事</p> <ul style="list-style-type: none"> 箸に関心を持つ。 嫌いなものでも促されて食べようとする。 <p>排泄</p> <ul style="list-style-type: none"> 便意、尿意を知らせ、自分でトイレに行く。 失敗することもあるが適宜一人で排泄する。 少しずつ我慢できるようになる。 <p>着脱衣</p> <ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱の順番が分かり、自分でやろうとする。 ボタンのとめはずしを自分でやろうとする。(直径1cm程度の大きさ) <p>清潔</p> <ul style="list-style-type: none"> 不完全でも歯を磨き始める。顔を洗っても泣かなくなる。 排泄後や遊びの後に、手を洗うようになる。 <p>片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 後片付けをするようになる。簡単な用事や手伝いを頼むと喜んでやろうとする。 <p>・身の回りで起きるいろいろな出来事や事物に親しみ、興味をもったり、模倣したりして自分からかわつたりするようになる。</p> <p>・身近な動物や植物など、自然に触れ驚いたり、親しみなどを感じて世話をしたりすることに興味をもち始める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 順序よく着脱ができる。 ボタン・スナップのはめはずしができる。 うがいや歯磨きの習慣が身に付く。 鼻をかみ、身体を清潔に保とうとする。 髪をとかす。 持ち物や身の回りの始末をしようとする。 		
遊び	<p>3 歳頃</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活を再現した多様な「ごっこ遊び」が展開される。 身近な話を題材にした「追いかけて遊び」が始まる。 砂や粘土など、可塑性のある素材を使って遊ぶようになる。みたくて遊びとしては、できたものに名前をつけるのではなく、イメージを描いてから作るようになる。 身体諸機能の発達状態に比例して、全身を使って遊ぶようになる。(ボール遊び・水遊び・かけっこなど) 	<p>3 歳後半</p> <ul style="list-style-type: none"> わらべ歌遊びがより面白くなる。(縄跳び・鬼ごっこ・まり・お手玉など) 	<ul style="list-style-type: none"> 「みたくて・つもり遊び」を豊かにし、「ごっこ遊び」に発展させていくには大人の働きかけが大切となる。 「ごっこ遊び」を始めるのは、こどもの中で自我が拡大し、第二自我の形成の準備が進み、自主性への志向と大人との共同生活への志向が育っていることが前提といえる。大人の豊かな経験を披露したり、多様な道具・遊具を用意したりして教育環境を整えること、仲間・時間・空間を保障することが大切である。 	

	4 歳	5 歳	6 歳	実践の重点及び配慮
生活	<p>4 歳頃</p> <p>睡眠 ・夜の睡眠時間は11～12時間。昼寝をしない子も見られる。</p> <p>食事 ・友達と楽しく食事をする。 ・嫌いなものでも少しずつ食べようとする。 ・よく噛んで食べる。</p> <p>排泄 ・排泄の失敗がなくなる。 ・排泄後の後始末がほぼできる。</p> <p>着脱衣 ・順序よく着脱ができる。 ・ボタンやスナップのはめははずしができる。</p> <p>清潔 ・うがい・手洗い・歯磨きの習慣が身につく。 ・鼻をかみ、身体を清潔に保とうとする。 ・髪をとかず。</p>	<p>6 歳頃</p> <p>睡眠 ・10～11時間。昼寝をしなくなる。</p> <p>食事 ・食事の仕方が身につく。 ・食べ物と身体の関係に関心をもって食事をする。</p> <p>排泄 ・排泄や後始末を上手にする。</p> <p>着脱衣 ・脱いだものを一定の場所に置く。 ・必要に応じて衣服の交換や調節をしようとする。 ・一人で衣服の着脱がきちんとできる。</p> <p>清潔 ・入浴時に自分で身体を洗えるようになる。 ・汗が出たらハンカチで拭く。 ・清潔にしておくことが病気の予防と関連することが分かる。 ・身体や衣服・持ち物などを清潔にする仕方を身につける。</p>	<p>・生活に必要な活動の意味が分かり進んで行うようになる。自分でできることに喜びをもちながら、健康、安全など生活に必要なことを少しずつ身に付けていく。 ・身近な自然や出来事について関心をもち、いろいろな関わりを強めるようになる。動物の世話もするようになる。</p>	<p>・家庭・所・園・地域の連続性のある生活の流れで、一日の生活を組み立てることが基本となる。保護者と保育者が協働して、こどもの発達のみならずに沿った生活プランを打ち合わせ、こどもが見通しをもって生活や遊びができるようにしていくことが大切である。こどもが基本的な生活習慣を確立し、集団生活での基本動作や身辺自立ができるようにしていく。 ・就学も意識して、早寝早起きの生活リズムが身につくよう、家庭に働きかけていく。</p> <p>・身近な動植物を責任をもって世話する中で、動植物への愛着やいたわりの気持ちが育まれるとともに、人に対する思いやりの気持ちも育まれる。</p>
	<p>4 歳頃</p> <p>・手遊び、指遊びが巧みになる。両手の協応と指先の機能分化が高次化する中であやとり・おはじき・お手玉・ボール遊びなどを楽しめる。 ・積み木・ブロックなどを用いての「構成遊び」が盛んになる。素材も豊かになり、出来上がった構成物に対して友達との了解を得て付け加えたりする。 ・ごっこ遊びもさらに発展、充実し、こども同士の話し合いによるイメージの共有や協力、役割分担が見られる。また、ごっこ遊びが劇遊びやペープサートに発展する場合もある。 ・隠れる側と探す側との役割が理解できるようになり、完全な「かくれんぼ」が成り立つ。さらに、かくれんぼはいろいろなやり方となって現れる。 ・手と足、右と左の協応運動を高次化させる全身運動としての「リズム体操」や縄跳び・竹馬・ボール遊びなどが好まれてくる。 ・簡単なルールを理解し始める時期であり、「ルールのある遊び」を集団で楽しむようになる。最初はじゃんけんを用いた遊びやいろいろな鬼ごっこなどから、次第にドッジボールやキックベース・サッカー・リレーなどルールのある集団的組織的遊びへと発展していく。 ・グループ間、クラス間でチームを作って競争を取り入れた遊びを好むようになる。 ・ハンカチ落とし・トランプ・カルタなどのゲーム遊びも楽しくなる。さらに、自分たちで道具を作り、ルールを難しくして楽しむようになる。 ・迷路図・ジグソーパズルなども好まれる。 ・いろいろな打楽器を組合せ、音を揃えて簡単な合奏ができる。</p> <p>4 歳頃</p> <p>・文字や数・図形に関しては個人差がみられる。遊び(トランプ・カルタ・すごろく等)の中で文字や順番・順位などに関心もてるようになる。</p>	<p>5 歳頃</p> <p>・文字・数字・図形や記号を使ったいろいろな遊びが工夫されて、知的な力で楽しむようになる。(しりとり・ことば集め・さかさことば・じゃんけんパズルなど)</p>	<p>・遊びの種類と発展過程を系統的におさえておいて、こどもの興味と意欲に応じてバランスよく取り入れていくことが基本となる。こどもが遊びを十分に体得できるようにしていくには、こどもが自主的、自発的に自由に遊びを楽しむ時間を十分保障することが大切である。それにより、身体的・知的・心理的など、様々な力をこどもの中に育てることができる。</p> <p>・楽しい遊びを豊かに展開する中で諸能力を育てるという視点が不可欠である。優れた遊び文化を伝えることにより、運動能力や手の操作性、言語力や集団力など、様々な力を子どもの中に育てることができる。</p> <p>・異年齢で一緒に遊んだり、生活したりする中で、小さい子への思いやりを育み、相互の違いを認め合える関係を大切にしていく。</p> <p>・文字での表示や五十音表を貼るなどして文字環境を整える。</p>	
保育課題	<p>※4歳頃は個人の力においても集団的力においても大きな飛躍の年である。4歳以前の発達と質的に変化がでてくるが、この変化を豊かに越えることがその後のこどもの発達課題に大きな影響を与える。</p> <p>・大人や仲間が本人の存在を肯定的に受け止め、居場所を積極的に提供し「基本的安全感」の確立を保障することがこの時期大切である。それと同時にこどもの自己内対話能力の育ちを促していきたい。また、大人が改めてこどもを権利の主体として捉え、こどもの最善の利益を保障するために、こどもの言動や欲求を受け止め共感していくことが、自己決定していく際のこどもにとって強い味方となり、「～ダケレド～スル」という行動につながる。いろいろな活動や経験の中で自己内対話能力を育て、自己決定していくことを通し、その子らしい個性と社会性の基礎が培われていく。</p> <p>・文字、数量の知識、概念については、教科学習開始前に身に付けておきたい前提の力を明確化し、意図的、系統的に確かなものにする必要がある。教科学習の前提の力としては次のようなことがあげられる。</p> <p>話し言葉について～日常生活において人の話を聞いて概ね理解できるようになること。また、自分の気持ちや経験ある程度人に伝えられるようになること。</p> <p>書き言葉について～相手と共有しながら、話し言葉を豊かに表現できること。また、自由に線が引け、形が書け、位置関係が理解できるようになること。</p> <p>数量について～10程度の数概念が形成されていて、10のまとまりを理解する力が形成されていること。</p>			

習志野市就学前教育・保育カリキュラム

発行年月 2026年（令和8年）4月

編集発行 習志野市こども部こども保育課

